

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

兵庫県稲美町

自治体名： 兵庫県稲美町

担当課名： 教育政策部（教育課、生涯学習課）

電話番号： 079-492-1212

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	34.92km ²
人口	30,517人
公立中学校数	2校
公立中学校生徒数	816人
部活動数	26部活 (運動21部、文化5部)
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	令和7年8月策定

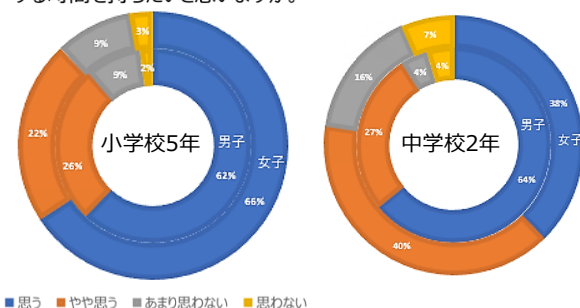
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

町内には、公立中学校が2校あり、ともに学年3～4学級の編成である。令和7年度の部活動入部率は86%である。しかし、生徒数減少に伴い部員数が減少している種目や、部活動数の減少により、希望する種目がない生徒もいる。また、現在は、各部とも基本的に教員2名が顧問として指導にあたっているが、休日は家庭の都合で従事できない教員もいるほか、専門的な指導が困難な種目もあり、教員の負担感は大い。

令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣状況調査において、「運動やスポーツをすることが好き、やや好き」と回答した児童生徒は、小学5年生では男子90.6%、女子91.3%、中学2年生では男子95.9%、女子77.5%であった。また、「中学校に進んだら自主的にスポーツをする時間を持ちたい」と回答した児童の割合も大きいことや、中学校の部活動入部率も高いことから、町内において、より充実したスポーツ環境の整備は欠かせない。

稲美町では、令和5年度より、部活動地域移行推進事業を開始し、中学校部活動地域連携・地域移行推進協議会にて今後の方向性を検討するとともに、部活動における地域指導者との連携や地域クラブ活動の試行を行っている。試行3年目は取組をさらに拡大し、学校と地域が協働・融合した稲美町としての持続可能なスポーツ環境の整備を行っていくこととした。

中学校に進んだら／中学校卒業後も、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思いますか。



(出典：令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣調査)

令和7年度	稲美中		稲美北中		合同活動	大会参加
【種目】	指導者	生徒数	指導者	生徒数		
陸上	〇◎	26	□	33	試行	学校
野球	◎	31	◎	17	試行	学校
ソフトボール		1	〇◎	9	拠点校	学校/権限時合同
サッカー	◎	25	◎	28	合同	地域クラブ
ソフトテニス(男)	〇◎	33	◎	27	試行	学校
ソフトテニス(女)	〇◎	17	□	35		学校
バスケットボール(男)	□	22	◎	40		学校
バスケットボール(女)	◎	22	◎	20		学校
バレーボール(男)	□	25	〇◎	27		学校
バレーボール(女)	◎	31	□	29		学校
卓球	◎	26	〇◎	36	試行	学校

◎地域クラブ活動(試行を含む)

○地域連携(部活動指導員、部活動専門指導員)、□学校教員のみ

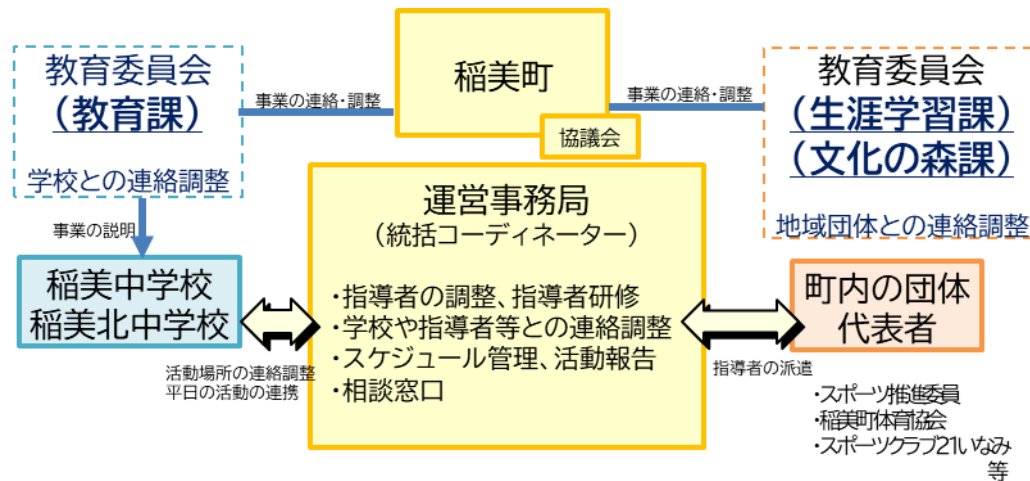
その他協議中・体連大会参加：水泳、体操、柔道

令和7年度稲美町立中学校における部活動および地域連携・地域移行への取組状況
(出典：稲美町部活動地域連携・地域移行推進協議会)

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会（教育課）

- ・学校との連絡・調整、平日の活動との連携
- ・課題の確認とその対応
- ・生徒・保護者への説明、ニーズ調査への協力

◎首長部局（生涯学習課）

- ・関係団体との調整、地域との連携に向けた調整と事務体制
- ・スポーツ推進計画の策定
- ・スポーツ振興のための指導や助言、地域指導者の派遣

年間の事業スケジュール

令和7年4月	保護者への事業の周知
5月	第1回協議会の開催 地域クラブ活動の開始準備
7月	部活動地域展開説明会 第2回協議会の開催
8月	教員ヒアリング 学校との調整会議の開催
9月	体育連盟、スポーツクラブ21、 体育協会、文化連盟等の各団 体へ説明
10月	町広報による周知
11月	地域クラブ活動状況の調査 次年度計画
12月	第3回協議会の開催
令和8年1月	教員ヒアリング 指導者研修会の実施
2月	成果報告書の作成、次年度に 向けた検討課題の整理
3月	第4回協議会の開催 令和8年度試行参加部活動の 調整と活動準備

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2校	実施した地域クラブ総数	11クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1クラブ（2部活）
	B：部活動の地域移行に向けて実証研究に取組んだクラブ数（及び実証参加部活動数）		10クラブ（15部活）
全体の指導者数	27人	全体の運営スタッフ数	12人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数	会費	大会参加方法
サッカーモデル事業 （INAMI FA）	町運営[地域団体・人材活用]	サッカー	月4回程度	8:30 ～11:30	1年:19人 2年:16人 3年:18人	通年	学校施設	5人	2人	平日の部費と共用で実施	中体連：地域クラブ その他：地域クラブ
バスケットボールモデル事業	町運営[地域団体・人材活用]	バスケットボール（男/女）	月2回程度	8:30 ～11:30	男:40人 女:42人	通年	学校施設	4人	3人	モデル事業につき0円（部活動の道具使用）	中体連：部活動
合同モデル事業	町運営[地域団体・人材活用]	A:ソフトテニス B:卓球 C:野球	年3回	8:30 ～11:30	A:42人 B:37人 C:33人	オフシーズンを中心に実施	学校施設 町内施設	A:5人 B:4人 C:4人	A:3人 B:2人 C:2人	モデル事業につき0円（部活動の道具使用）	中体連：部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- アスリート人材との練習会の開催（サッカー）
- スポーツ障害の予防に向けたトレーニングの実施（野球・バスケットボール）
- スポーツフェスティバルの開催（稲美町体育協会、令和7年9月）

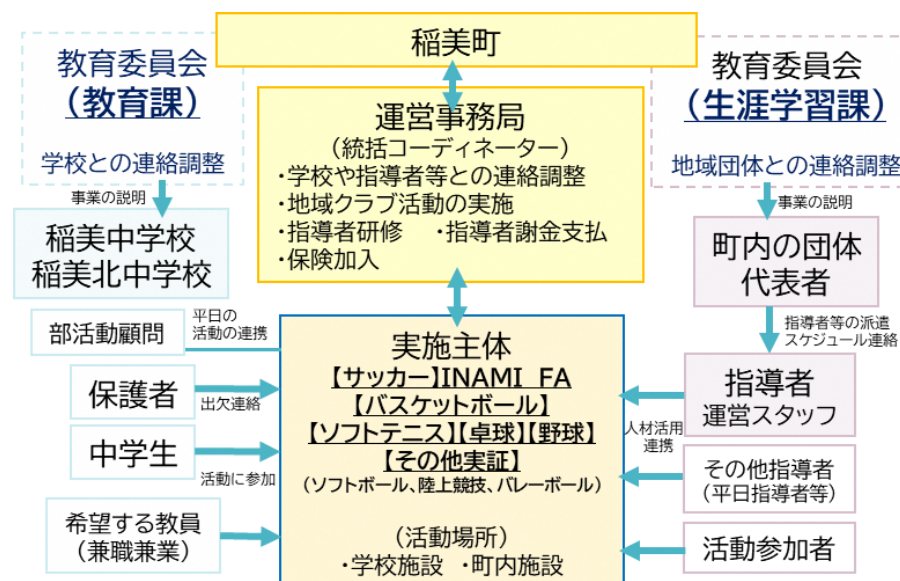
2.実証内容と成果

主な取組例

●稲美町中学生地域クラブ活動（仮称） 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー、バスケットボール 野球、ソフトテニス、卓球 等 (その他、各部で試行を広く実施)
運営団体名	稲美町教育委員会 (部活動地域展開運営事務局)
期間と日数	サッカー：通年（月4回程度） バスケットボール：通年（月2回程度） 野球、ソフトテニス男、卓球 ※オフシーズン実施（年3回程度） その他種目も随時試行を実施
指導者の主な属性	会社員、自営業、兼職兼業教員、学生
活動場所	稲美中学校、稲美北中学校 町内体育施設 (体育館、テニスコート、グラウンド等)
主な移動手段	自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	町内実証期間のため参加費なし 活動費、備品、道具等は、平日の部活動と共用
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等（サッカーの例）

指導者の役割分担		
A	統括	他チームとの連絡調整、中体連
B	3年担当	会計やバス代などの事務担当
C	2年担当	監督
D	1年担当	コーチ

指導経験の豊富な者が、チーム内の指導者育成の視点からアドバイスを行っている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備①

取組事項

- ・ 稲美町における運営団体・実施主体の整備、持続可能な運営体制の整備を行う。
- ・ 先進地の情報を参考に、稲美町における組織体制の整備を進める。
- ・ 関係者との連絡調整や指導助言の体制について、地域クラブ活動の試行をもとに課題とその対応を検討する。
- ・ 実施主体の整備のため、部活動の顧問の業務や学校との連携に必要なことがらを整理する。

取組の成果

先進地の事例収集や近隣との情報交換により、稲美町の現状に応じた部活動の地域展開に向けて、モデルの構築の検討を行った。先進地としては、同規模の人口の自治体の取組を参考とした。また、近隣地との情報交換により、面的広がりにもつながると考えられた。

教員や地域指導者、関係団体のヒアリングの中で、多様な意見や提案も寄せられた。教職員や関係者の主体的な参画は、町内における取組推進の大きな力となった。

モデル事業のいくつかでは、連絡体制にアプリケーションを使用し、指導者から生徒・保護者への一斉連絡を行うとともに、実施状況を運営事務局も把握できるようにした。さらに、顧問との共有により、平日の活動と連携した活動となるようにした。一方で、低廉な活動費用を考える点からは、利用料が課題である。

本日ご説明するアプリについて



アプリケーションの活用により、参加者及び保護者と地域指導者が直接連絡をできるようにした。開催予定や雨天時の連絡、出欠の連絡を行った。また、活動の様子を保護者にも発信した。

出典：部活アプリ（フカソフラス・スポーツインキュベーション株式会社）

コーディネーターの具体的な動きの実績

令和6年度より、統括コーディネーター1名を教育委員会事務局に配置し、学校及び関係団体との連携強化に努めた。また、教員ヒアリングの実施により、部活動の地域展開について丁寧に説明をするほか、教員や関係団体からの意見聴取に努めた。

今後の課題と対応方針

これまで部活動を運営してきた教員の業務と、試行で得られたことをもとに、実施主体と運営事務局の連絡体制を明確にしていく必要がある。役割分担や運営のモデルをつくり、安心安全な活動体制づくりが必要である。また、運営事務局と指導者の連絡方法の構築が必要である。スケジュール調整や生徒、保護者との連絡方法について、アプリケーションの活用等の検討を進めていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備②

取組事項

- ・運営事務局と実施主体との連絡体制の整備を進めた。また、試行の中から、実施主体における指導者の役割分担について、指導者等へヒアリングを行い課題を洗い出し円滑な活動のための環境整備を行った。
- ・学校との連絡調整については、統括コーディネーターを中心として行い、指導者との連絡を行った。地域クラブ活動の体制整備とあわせて、地域連携の取組（部活動指導員の配置、合同部活動等）も実施した。

取組の成果

令和7年度も、稲美町による運営とし、稲美町教育委員会内に事務局をおき、行政各部署との連絡、学校との連絡、指導者との連絡等を行った。統括コーディネーターが中学校及び実施主体との連携調整にあたった。

検討段階である現在は、町による運営とし、実施状況について詳細に把握ができた一方で、運営事務局の業務が多岐に渡った。責任体制の明確化や相談窓口の設置、指導者の勤務管理等、整備が必要な項目や要項を作成するとともに、シンポジウムや研修会に参加し、事務局運営に必要な事柄を整理した。

町協議会においては、「子どもたちのための地域クラブ」として、円滑な導入に向けた方針や募集要項の内容についての協議を行った。

一貫指導に関する部活動顧問との連携事例

- ・休日から地域クラブ活動の実施に向けた準備を進めているが、今後を見据え、平日は部活動指導員の地域の指導者が、学校での部活動に協力する地域連携に取組んだ。
- ・週末の練習や試合で出た課題を、それぞれの学校での平日の活動で改善するよう練習し、次の週末に繋げた。
- ・指導計画等を共有し、共通理解のもと練習を行った。アプリの活用により、情報共有を行った。



稲美町部活動地域連携・地域移行推進協議会における協議（稲美町）

今後の課題と対応方針

地域展開に関する報道が増える中で、町内における今後の取組等についての情報が少なく、関係者や生徒、保護者からの不安の声も多く寄せられた。広報活動や丁寧な説明により関係者の理解促進につなげていく。先行実施している活動からヒントを得て、種目に応じた地域クラブ活動の実施を検討する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

- ・ 稲美町体育協会、スポーツクラブ21いなみ等、町内競技団体等と連携し、指導者を確保する。
- ・ 指導者に対して、資質向上のための研修の受講を促進する。心身の健康管理や事故防止の徹底、ハラスメント根絶に関する取組を行う。また、事務局においても指導者研修を開催する。
- ・ 移行期にあるため、平日の部活動と連携した活動となるようにした。そのため、地域人材の発掘を図り、部活動指導員を7名配置したほか、町独自事業として部活動専門指導員を5名配置した。また、無償ボランティアによる協力も得た。

登録者属性（人）

- ・ 会社員、団体職（3）
- ・ 自営業（1）
- ・ 非常勤講師（2）
- ・ 兼職兼業教員（小3・中13）
- ・ 学生等（2）
- ・ その他、ボランティア等によるサポートあり

資格の有無

実施種目に応じて登録を受け付けた。資格の有無等についての条件の検討のため、令和7年度は学校または事務局からの依頼とした。

種目（人）

- ・ サッカー（6）
- ・ バスケットボール（5）
- ・ ソフトテニス（6）
- ・ 卓球（2）
- ・ 野球（2）
- ・ ソフトボール（2）
- ・ バレーボール（2）
- ・ 陸上競技（3）

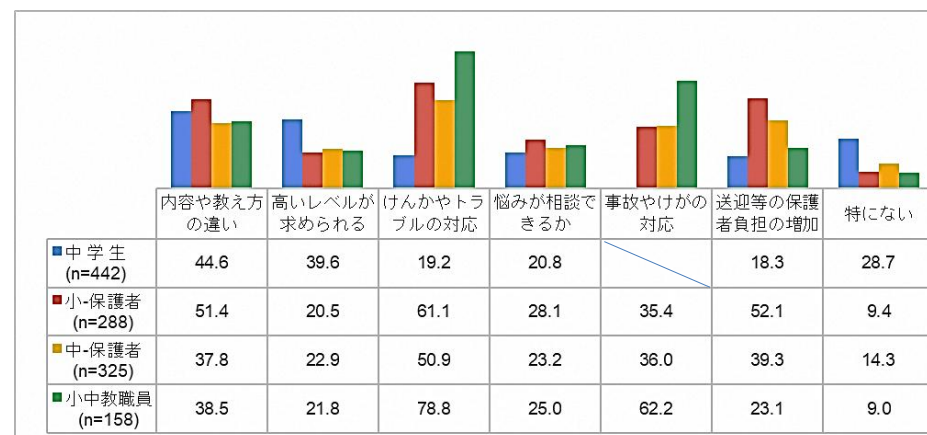
取組の成果

モデル構築のため、複数の指導者による活動となるようにした。中でも、指導者の意思統一や、シフト制による活動への参加を課題とした。

その結果、サッカーにおいては指導者の役割分担が進み、シフト表の作成や指導項目の共有方法等が他種目のモデルとなった。また、ソフトテニスにおいても、複数指導者が交代で活動に関わることとし、シフト制による指導とするほか、指導者間の連携を密にした。

令和6年度アンケート結果から、「指導内容や教え方の違いにより生徒が戸惑わないか」「けんかやトラブルの対応」「事故やけがへの対応」についての不安が多く寄せられており、事務局にて指導者研修会を開催した。

（問）地域指導者による指導にどのような不安がありますか。（複数回答）



出典：令和6年10月稲美町中学校生徒・保護者・教職員アンケート（稲美町教育委員会）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

第1回「思春期の身体とトレーニングについて」

理学療法士（実証事業/スポーツ21いなみバスケットボール指導者）

- ・姿勢や可動域の重要性やトレーニングの考え方について、実技
- ・試合後のクールダウンとリカバリーが翌日のプレーに与える影響

第2回「チームマネジメントについて」

- ・2中学校の合同クラブ活動におけるチームマネジメントについて
- ・地域と連携した吹奏楽部の活動について
- ・チームマネジメントについて 一部活動、学級活動、授業から考える

指導者と選手が同じ方向、同じ目的で取組むことが大切。育ってほしい生徒の姿を思い描き、伝え、その場を作ることを繰り返す中で子どもたちができるようになる。

指導者研修の参加実績

・第1回開催日：1月17日

・参加人数：28人

・参加人数：34人（中学生含む）



受講者の声

【第1回】

理学療法から見たトレーニング説明や体験を通してわかりやすく学ぶことができた。各運動部でも受けた方がいい内容であると思った。

子どもの体の成長を促し、ケガを防止するための研修は、学ぶ機会が少ないので年1回指導者全員が受けるように計画していくべきだと思う。

【第2回】

中学校の部活動についての先生方の思いや地域移行に向けての現状を改めて知り、参考になった。また、生徒と教員との関係や生徒理解等、中学校では部活動が多方面で影響しているという事もよくわかった。地域移行となると教師の資質向上がますます必要だと思った。

それぞれの先生の指導観を聞くことは、自分の指導を見直す良い機会になると思う。また、一般の方には、地域展開後の活動の在り方の指針になると思う。スポーツ以外の指導についても参考になると思う。

今後の課題と対応方針

指導者からは、思春期の中学生に関わることへの不安が寄せられている。また、生徒・保護者からは、「トラブルが起こった時に、学校の先生と同じように関わってもらえるか」との不安があった。教員も同様である。今後は、生徒・保護者・教員・指導者が安心して地域クラブ活動を実施できる体制と指導者研修を充実させていく。また、指導者に必要な研修の体系化についても準備を進めていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- ・スポーツ推進委員や町内競技団体との連携強化についての方法を検討する。
- ・スポーツ関係団体（稲美町体育協会、スポーツ推進委員、スポーツクラブ21いなみ等）への説明、協力依頼を行う。
- ・関係団体と連携を進めるために、試行での課題をもとに、地域クラブ活動のガイドライン等の整備を行う。

取組の成果

稲美町体育協会では、代表者会議の中で、地域展開に向けた取組についても取り上げ、協議を行っている。また、令和6年度の取組として、協会主催の「スポーツ体験フェスティバル」が開催された。

当日は、バスケットボール、卓球、バドミントン、剣道、ショートテニス、少林寺拳法等、10種目の体験コーナーが開催され、約90人が参加した。

町協議会における「小さいころからのスポーツの経験が、生涯にわたりスポーツに親しむ基礎になる」との意見や、令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣状況調査において、「運動が好き」と回答する小中学生が国や県の平均に比べて多いことから、スポーツ関係団体の協力により、地域におけるスポーツ活動環境の充実に繋がれると考えられる。



出典：スポーツ体験フェスティバル（NPO法人稲美町体育協会）

町体育協会主催行事との連携

地域クラブ活動の試行種目だけでなく、町内中学校の部活動種目が、地域での活動に積極的に参加している。また、町体育協会主催の町民大会やイベントにも積極的に参加している。

町体育協会との連携

卓球では、地域クラブ活動の試行として実施した中学生の合同活動において、体験フェスティバルへの参加の呼びかけがあった。中学校卓球部と卓球協会は、町民大会でも交流があり、多世代に渡る卓球大会が開催されている。また、指導者バンクの設置を検討しており、指導者の不足している団体や種目に対してマッチングを行っていくことを予定している。

今後の課題と対応方針

指導者については、複数の指導者が必要であると考えており、各部において連携を進める。町内スポーツ団体が一体となり協力ができる体制づくりを含め、運営事務局・関係団体・学校の連携強化により、地域クラブ活動の実施主体の体制についても検討を進めていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

- 地域クラブ活動や地域連携の試行部活動の取組をもとに、町内2中学校の合同での活動についても検討を進める。
- サッカー部では、数年前から休日は合同部活動として活動しており、令和6年度から地域クラブ登録により大会に出場した。
- 種目ごとに大会参加のあり方（中体連主催大会、協会主催大会）について検討する。

各自治体の役割

持続的な運営に向けて、適正な活動規模や指導者の確保の点から、活動の集約化を予定している。子どもたちが「チームいなみ」として活動していくためには、気持ちをひとつにすることが欠かせない。地域クラブ活動への期待として、他校の生徒とのつながりも拳がっていることから、合同での活動を段階的に取り入れ、「チームいなみ」としての所属意識を高めていく。

移動手段

- 【活動場所】
- 稲美中学校、稲美北中学校
 - 練習試合または大会の会場
- 【活動場所までの移動方法】
- 練習予定表であらかじめ指示
 - 町内の移動は自転車を基本
 - 大会の際は保護者送迎または借上バスを使用（バス代は個人負担）

事務局運営の方法

活動場所の指示は、チーム（指導者）から連絡を行った。当町では、申し出により全員が自転車通学であるため、町内の移動は自転車を基本とした。その際、チームにおいても交通安全の指導を行った。

大会参加や町外での練習試合については、町外活動実施願を提出し、事務局にて許可をした。また、緊急時に備え、事務局とチーム代表が連絡を取れるようにした。

取組の成果

サッカー部は部員数減少により、平成30年度から部分的に合同部活動を行ってきた。その後も継続的に合同で活動を行い、部員数も徐々に増加して、安定した活動ができるようになった。その結果、練習試合の回数も増えた。また、借上バスの一人当たりの負担額も少なくなった。現在、6名の指導者が、役割分担により運営と指導を行っている。また、休日は平均2名で指導しており、指導者の負担軽減につながっている。

入部数	平成29年	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
稲美中（人）	14	6	11	0	6	9	7	9	8
稲美北中（人）	7	10	11	7	7	11	12	7	11

出典：サッカー部入部数の変化（稲美町教育委員会）

今後の課題と対応方針

持続的な運営に向けて、適正な活動規模や指導者の確保の点から、現在ある両中学校の部活動の種目をひとつの活動としていくことを基本に進めている。今後は、合同での活動を増やし、平日の活動も含めた、持続可能な活動となるような「稲美町モデル」を構築していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

- 休日の地域クラブ活動の実施に向けたモデル構築（合同部活動から、地域クラブ活動の本格実施に向けた準備）
- 指導者の役割分担と、生徒の個々のレベルに応じた練習、活動、指導の展開
- 安全体制の整備
- 平日の活動との連携
- 指導者の確保と育成
- 収支構造の確認
- 多様な練習機会の創出
 - ・ 練習試合の試合形式の工夫小学生も参加できる活動の実施
 - ・ 高校生や卒業生、保護者もともに活動する機会
 - ・ J1リーグで活躍する選手による練習会の開催

活動の詳細（サッカー）

参加人数	53人	指導者数	5人
属性	稲美中学校生徒、稲美北中学校生徒、会社員、兼職兼業教員		
具体的な内容	● 個々のレベルに応じた練習、活動、指導の実施 ● 指導者の役割分担による外部との連絡調整や運営、指導者の育成 ● 指導者間の情報共有、平日の活動との連携 ● 多様な練習機会の創出（小学生、卒業生や保護者の参加、J1選手による練習会）		
子供の声	● サッカーを通じて同級生の仲間が増えているからうれしい。 ● 同じ学校の部員同士でトラブルがあっても、もう1つの中学校の部員がいるから何とかなる。		
関係者の声	● 合同で活動できるという点で、クラブチームではなく部活動を選択する生徒も出てきた。いろいろな考え方があるが、サッカーという競技性もふまえて、生徒のためになる活動だと考え指導にあたっている。 ● 学校を超えての繋がりができるので、生徒にとっても教師にとっても良い刺激になると考えている。		
J1リーグ選手による練習会参加者の感想	● ボールをもらう前だけではなくいろいろな場面でまわりを見ていたので、僕も頑張りたい（生徒）。 ● 卒業生で、J1リーグで活躍する選手であっても謙虚な姿勢を貫く姿勢に感銘を受けた。今年、大怪我を負ったことで新たな道が拓けたと柔軟な姿勢やストイックに意識を高く持ち続けることは、生徒だけでなく自身の考え方に繋げていきたいものだった（指導者）。		
運営経費	・ 指導者等謝金（運営事務局） ・ 中体連大会参加指導者旅費（運営事務局）及び選手派遣費補助（教育委員会） ・ 備品消耗品費、チーム登録・協会大会参加費は、平日の活動の部費及び中学校生徒活動振興会費用、学校備品の使用による。		



出典：卒業生、保護者との練習会の開催（INAMI FA）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

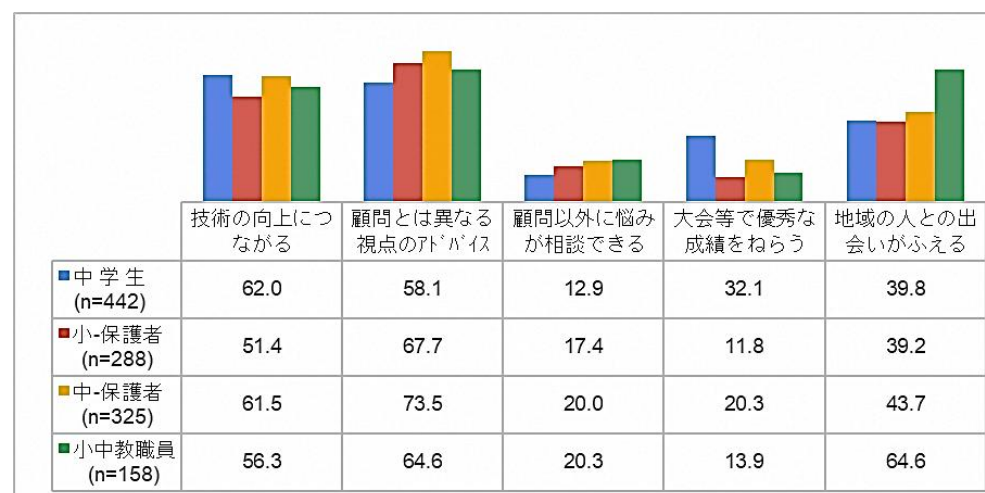
●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

「地域指導者による指導への期待」についてアンケートを実施した結果、生徒・保護者ともに、「技術の向上」や「先生とは異なる視点でアドバイスをもらえること」が大きな期待であることがわかった。また、生徒は「大会等で優秀な成績をねらうことができる」と回答した割合が保護者や教員より大きく、保護者や教職員とは異なる傾向であった。これは、「部活動やクラブ活動で大切にしていること」に対する回答と同じ傾向であった。教職員は、「地域の人との出会い」に対する期待も大きいことが分かった。また、負担軽減や休日が取れることへの期待意見も寄せられた。

これらアンケートの結果をもとに、指導について、地域指導者と教員の役割分担や目指す方向性を確認して指導にあたった。また、地域の人との出会いに対する期待も大きいことから、今後、地域の多様な人材の参画により、より充実した活動へとつなげていく。

(問) 地域指導者による指導にどのような期待がありますか。(複数回答)



出典：令和6年10月稲美町中学校生徒・保護者・教職員アンケート（稲美町教育委員会）

今後の課題と対応方針

現在は、運営についても試行中であり、教員と地域指導者ともに指導にあたる時間も多し。一緒に指導を行い、日頃の様子を掴んでもらい、徐々に地域指導者が中心となる指導を増やしていく予定である。これらにより、技術的な連携は可能であるが、生徒指導面の連携や個人情報の取扱いについては配慮を要する。

技術面の指導だけでなく、サポート的側面から協力したいとの意見も寄せられた。種目をこえた連携や研修プログラムの工夫により、地域指導者各々の強みを生かした地域クラブ活動の実施ができると考えられる。指導者の情報交換会を定期的で開催し、より充実した取組にしていく。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

部活動の地域展開に向けて、令和6年度を取組をさらに広げ、運動部各部において地域連携や地域クラブ活動を試行した。地域からの指導者の参画、指導者や教職員、生徒等からの様々なアイデアにより、競技に応じた工夫を凝らした活動ができている。また、実施したアンケート結果からは、関係者の地域展開への期待の大きさもうかがえた。

一方で、移行期の子どもたちにとって、活動の試行による急激な変化を避けることもまた大切である。段階的な地域展開に向けて、地域連携を実施することとし、部活動指導員や部活動専門指導員として協力を得た。部活動指導員の配置により、教員が指導に携わる時間が半減した。「チームマネジメント」をテーマとした研修では、地域展開後の生徒との関わり方について、教員から問題提起があり、参加者が考える機会となった。

事務局の運営体制の整備については、検討課題が多岐に渡り、さらなる情報収集と課題の整理が必要である。安全確保の体制づくりをはじめ、参加者が安心して活動できる環境づくりが必要である。

●成果の評価

- サッカーでは、昨年の活動をより充実した活動とすることを目指して、大学生指導者の登用や、平日の活動に向けた課題の整理を行った。また、多様な練習機会の創出にも取組、多世代に渡る活動を実施した。
- バスケットボールでは、理学療法士やスポーツトレーナーと連携し、安全確保の体制づくりに力を入れ、種目を越えた研修プログラムの整備に繋げた。
- ソフトテニスでは、生徒が主体的に参加する新しい地域クラブ活動を開始した。特に、アジリティトレーニング等、からだづくりの基礎にポイントを置いた練習を実施した。
- 卓球においては、個々の目標を明確にした練習会を実施した。
- 野球においては、冬季のトレーニングを中心に、合同での活動を行った。
- 事務局の部活動地域展開の方針や募集要項・人材バンクの検討、町施設の減免利用や環境整備等、本格実施に向けた検討課題の整理が必要である。

●今後に向けて

新しい地域クラブ活動への期待とともに、これまで活動してきた部活動の教育的意義への思いも大きい。移行期の生徒たちにとっても充実した活動であることが大切である。一方、新しいクラブ活動も、目指す姿を明らかにし、よりよい稲美町モデルの構築が必須である。新しい価値の創造となるよう、研修会を工夫し、ニーズを把握した活動の在り方について、常に検討を続ける必要がある。また、平日の活動の体制整備も必要である。

「部活動の地域展開から始まるまちづくり」「生涯に渡ってスポーツや文化芸術活動に親しむまちづくり」となるよう、引き続き関係者や地域の協力のもと、取組を進めていく。

2.実証内容と成果②

アンケート結果・広報資料

稲美町立中学校の部活動のしくみが変わります
部活動の地域連携・地域移行（地域展開）について

全国的に、少子化が進む中で、子どもたちのスポーツ・文化活動の充実が必要とされ、全国的に部活動改革が進んでいます。

稲美町教育委員会では、令和5年度から『部活動改革プロジェクト』を進めています。これは、中学生が今後もよい環境で部活動ができるように、新しい部活動のあり方を考えるものです。

スポーツ・文化活動に関係している方々や学校の先生方と課題を整理し、解決を図る会議（稲美町中学校部活動地域連携・地域移行推進協議会）を開いています。また、今ある中学校の部活動について、地域の方と学校の先生と一緒に部活動の指導することや、稲美中学校と稲美北中学校の合同練習をしています。

今後、休日の部活動について、「学校単位の部活動」から、「稲美町単位の部活動」へとしくみが変わっていくので、新しい部活動の在り方を試行していきます。「稲美町の子どもたち」を中心とした、より良い環境を整えられるよう、これからも検討を進めます。みなさんご協力をお願いします。

Q：中学校にはどんな部活動があるの？
A：稲美町の中学校には26の部活動があります。陸上競技部、野球部、ソフトボール部、サッカー部、ソフトテニス部、バレーボール部、バスケットボール部、女子卓球部、吹奏楽部、文化芸術部【稲中】、美術部【北中】、科学部【北中】
今ある部活動の今後のあり方を検討しています。

Q：どのような人が指導するの？
A：各競技団体から派遣された指導者、元教員、地域クラブ活動の指導を希望する現職の教員などが「地域の指導者」として関わる予定です。また、各競技の指導者資格を持つ方や競技経験がある人など、地域の方々もスタッフとして関わってもらえる体制づくりを目指しています。

Q：大会やコンクールはどうなるの？
A：まずは、休日の学校部活動を学校単位から地域での活動とすることを目指しています。しかし、現在、学校にある部活動については、大会やコンクールはこれまで通り、学校の部活動として出場することを基本に考えています。各競技の大会等に影響がない休日の活動を中心に実施していきます。

稲美町での試行の様子（稲美町モデルの構築に取り組んでいます）

- ・地域人材による指導（陸上競技部、バスケットボール部、吹奏楽部）
- ・合同部活動の取組（サッカー部、吹奏楽部）
- ・地域団体と連携した活動（吹奏楽部）

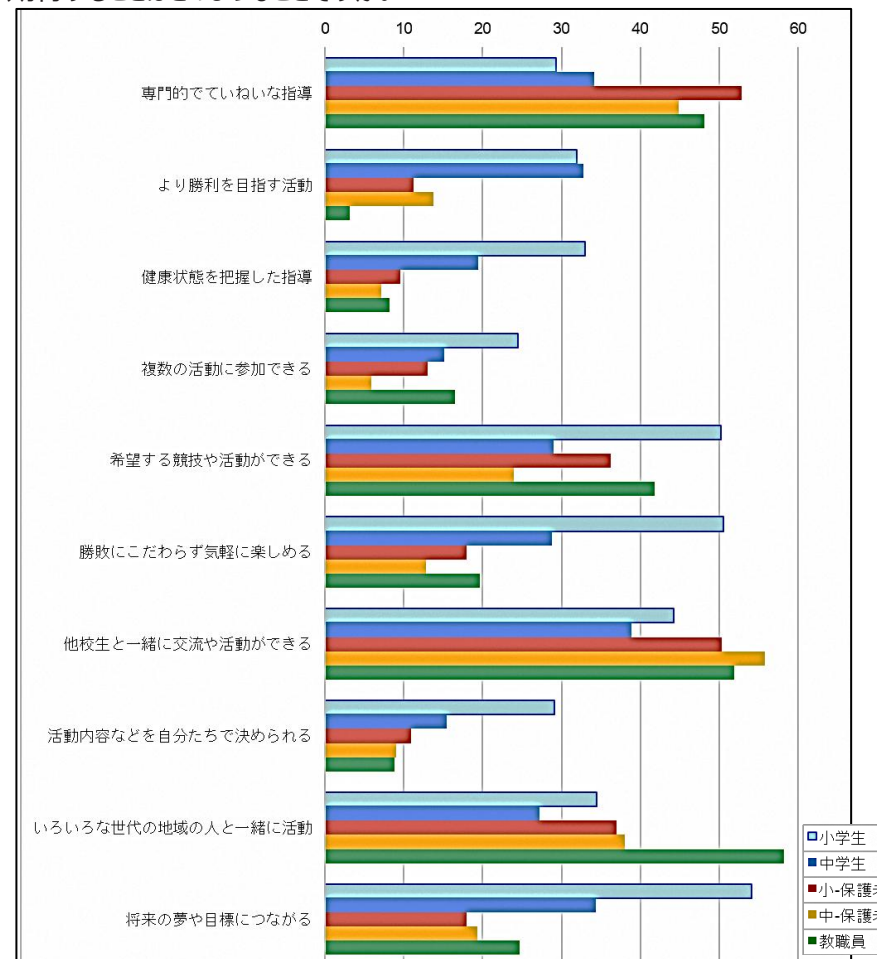
令和6年度は、試行種目を拡大しています

陸上競技部、バスケットボール部、サッカー部、吹奏楽部

【部活動の地域展開についての説明資料】

出典：稲美町部活動地域連携・地域移行推進協議会、稲美町教育委員会

中学校の部活動が地域の方と連携したり稲美町としての活動になることについて、期待することはどのようなことですか。



【アンケート結果】

出典：令和6年10月稲美町中学校生徒・保護者・教職員アンケート（稲美町教育委員会）

2.実証内容と成果③

参考資料（活動写真）



【部活動から移行したチームとして中体連大会に参加（サッカー）】



【冬季トレーニングの合同実施（野球）】



【地域指導者によるトレーニングメニューの実施（バスケットボール）】



【生徒による練習メニューの計画（卓球）】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年

- ・関係者との意見交換会の実施
- ・教員への説明

令和5年

- ・協議会設置
- ・学校現場との調整
- ・指導者の選定

令和6年

- ・生徒、保護者への説明
- ・地域クラブ活動試行

- ・試行種目、受け皿団体や指導者の選定

令和7年

- ・生徒、保護者への説明
- ・地域クラブ活動の試行拡大

令和8年

- ・事務局体制整備
- ・先行実施による課題整理

教職員への周知、理解と協力

- ステークホルダー
 - ・教職員、協議会委員、町体育協会、町スポーツ推進員、町文化連盟
- 経過
 - ・国の提言やガイドラインに基づき、各校の代表者と地域連携に関する準備検討委員会の開始に合わせて教職員への説明を行い、協議会を設置した。
- 実施にあたって生じた課題
 - ・教職員それぞれが持つ、部活動への期待と不安、現場の現状等、さまざまな意見があった。
- 実施内容、工夫した点 等
 - ・事務局統括コーディネーターが各校の教職員からヒアリングを継続して行い、事業の理解と周知に努めた。

合同部活動、拠点校部活動の模索

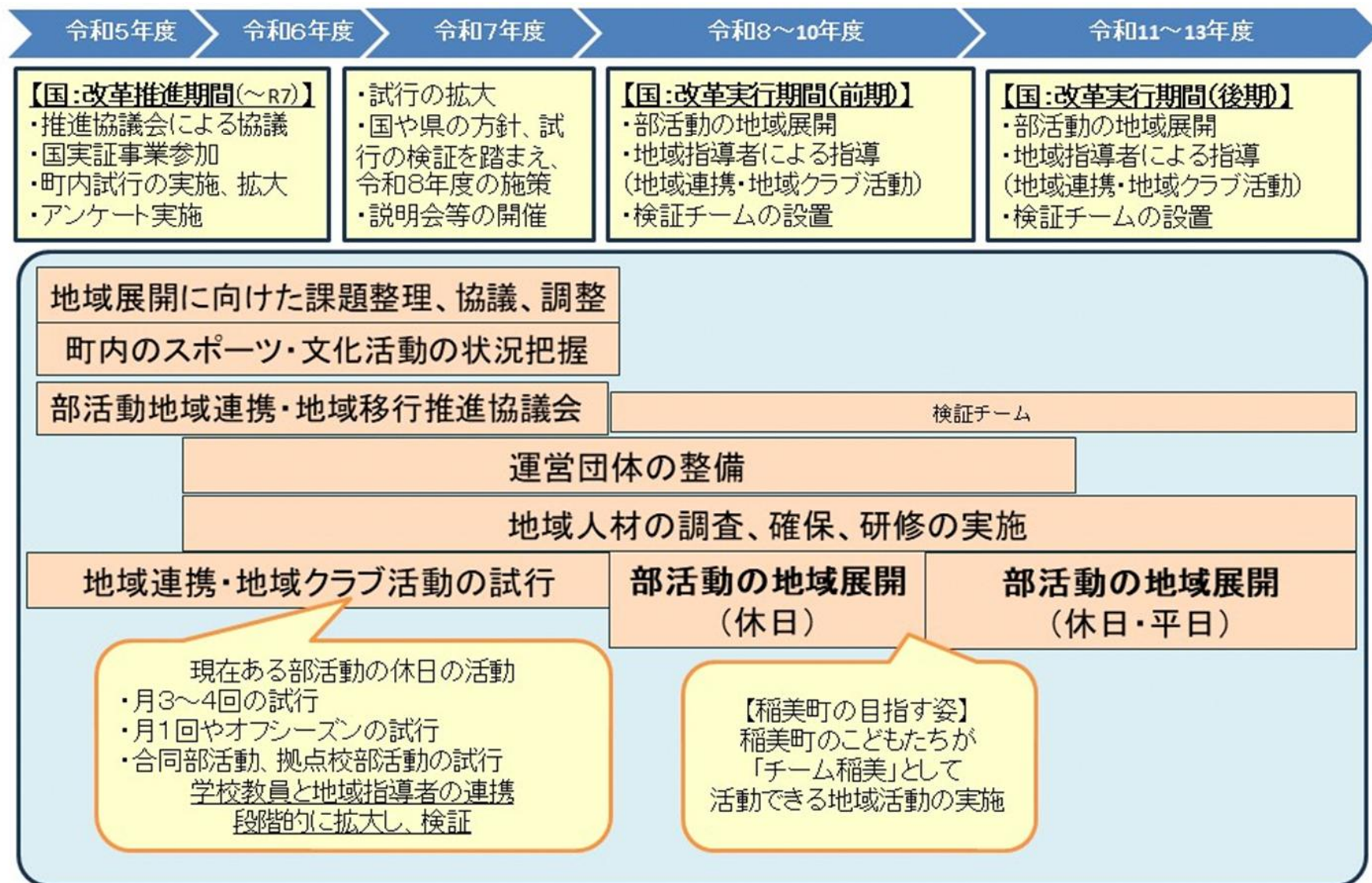
- ステークホルダー
 - ・生徒、保護者、教職員、教育委員会
- 経過
 - ・すでに合同活動を開始していたサッカー部に続き、吹奏楽部でも合同活動を開始した。地元吹奏楽団との連携は数年前から続いており、専門のスタッフを配置することにより、より充実した活動になった。
- 実施にあたって生じた課題
 - ・各競技種目により大会の出場規定の違いがあることや、合同チーム・拠点校の規定について、調整が必要であった。
- 実施内容、工夫した点 等
 - ・生徒（部員）数の減少で、維持が難しくなっている部活動への、合同活動のあり方を問い直した。

運営団体・実施主体の整備

- ステークホルダー
 - ・地域指導者、地域団体、推進協議会
- 経過
 - ・試行中の活動から、モデル構築をめざすとともに、地域指導者の連携だけではなく、実施主体（受け皿）としての組織体制の構築をめざした。
- 実施にあたって生じた課題
 - ・実施にあたり、種目による検討課題のリストアップと安全面の体制整備の必要性があった。運動部における地域クラブ活動、事務局体制の整備と、多岐にわたる展開で、書類の整備や事務局と指導者との連携に負担がかかったため、生涯学習課との協働を次年度への課題とした。
- 今後の課題等
 - ・組織体制の確立とともに、地域指導者を対象にした研修、安全体制の確保、費用負担の在り方が課題である。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ（令和7年12月現在）



令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

兵庫県播磨町

自治体名： 兵庫県播磨町

担当課名： 教育委員会 地域学校教育課

電話番号： 079-435-0303

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	9.13km ²
人口	34,765人
公立中学校数	2校
公立中学校生徒数	1,016人
部活動数 (運動部活動のみ) * 休日展開部数	19部活
地域クラブ活動数 * 平日地域展開部数	20クラブ
市区町村の協議会・ 検討会議等の設置 状況	設置済
市区町村の推進計画・ ガイドライン等の策定状 況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

《現状》

播磨町の運動部の種目は、野球、サッカー、バレーボール部、バスケット、ソフトテニス、卓球で19の部活動で活動している。比較的種目は多いものの、小学校時代に経験した種目が中学校部活動になく、それらの生徒の受け皿がなかった。

そこで、これまでに新たに7つの地域クラブとして、剣道、ハンドボール、ダンス、体操、少林寺拳法、水泳、e-スポーツ、バドミントンを創設し活動するとともに、19の部活動において、兼職兼業許可を得て50名（教員47名、公務員3名）が地域指導者として従事している。

この結果、学校部活動610人、地域クラブ120人、地域指導者104名がスポーツ活動に参加している状況である。

主な取組として、次の取組を実施した。

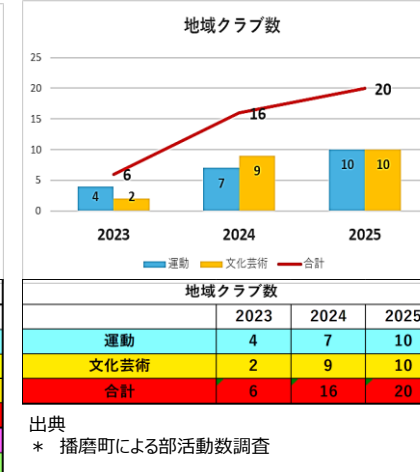
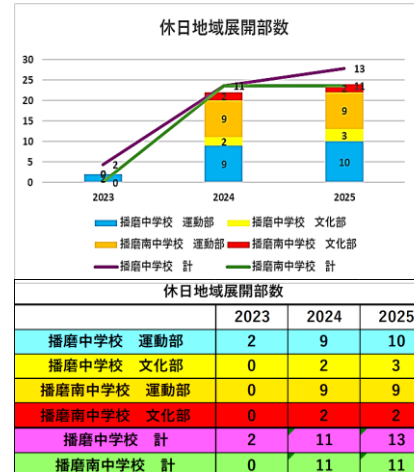
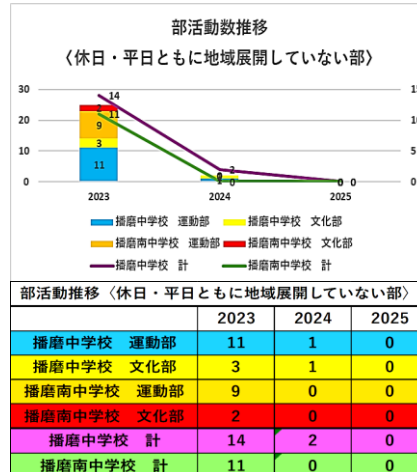
- ・多様なスポーツ体験の提供
- ・ジュニアからシニアまでの多世代での取組

- ・不登校や障害のある子ども達の地域の居場所づくり
- ・安全確保の体制整備
- ・大学との連携促進
- ・生徒の発表の場の創出

・保護者等への広報啓発の促進、他
これらの取組の結果、クラブ員も増加し、不登校傾向にある生徒や特別支援学級に在籍している生徒の受け皿にもなったり、複数種目に参加が増加したりしている。

《今後の課題》

- ・運営母体の再整備による機能充実
- ・系統的指導体制の構築
→組織化（令和8年、地域クラブ認定制度の導入）→スポーツ協会への加盟
- ・指導者の質の向上及び量の確保
- ・連絡ツール及び指導者管理アプリのさらなる機能充実化

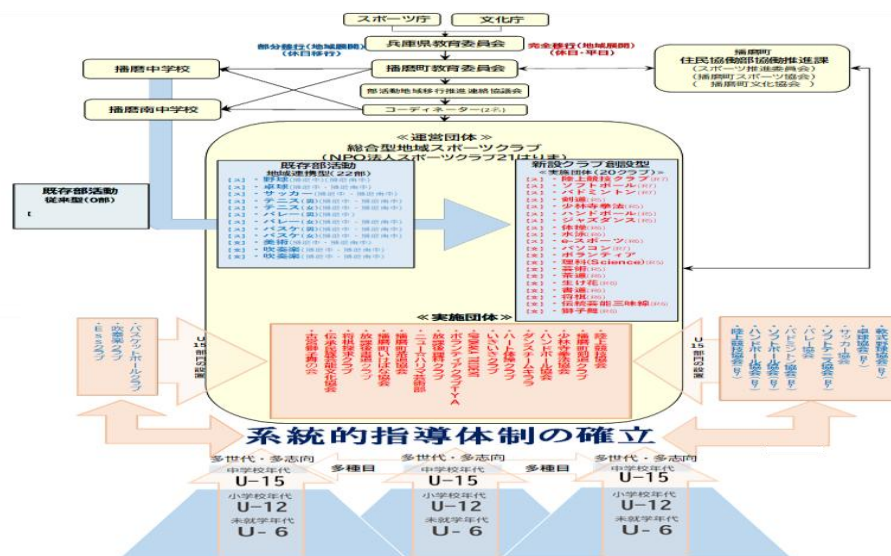


出典
* 播磨町による部活動数調査

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会（地域学校教育課）

- ・新たな地域クラブ活動の推進や持続可能な文化芸術の振興等に向けた支援

○コーディネーター

- ・運営団体と学校・関係団体との連絡調整を行う

◎首長部局（協働推進課）

- ・町の重要施策（子育て施策）として、部局横断的な取組を推進

年間の事業スケジュール

年	月	スケジュール
R7	4月	◆第1回スポーツアドバイザー招聘事業の実施
	5月	●第1回部活動地域展開推進連絡協議会の開催 [協議① 播磨市における部活動の現状と課題について] [協議② 今後の方向性について] ■第1回スポーツ指導者講習会の開催
	6月	
	7月	■第2回スポーツ指導者研修会の開催 ●第2回部活動地域展開推進連絡協議会の開催 [協議① 指導者の量の確保と質の向上について] [協議② 町独自の財源確保にむけて（クラウドファンディング）] ◆第2回スポーツアドバイザー招聘事業の実施
	8月	
	9月	■第3回スポーツ指導者講習会の開催 ●第3回部活動地域展開推進連絡協議会の開催 [協議① 安定した財源確保と体制整備について] [協議② 今後の受益者負担の在り方について] [協議③ クラウドファンディングの公募について] ◆第3回スポーツアドバイザー招聘事業の実施
	10月	
	11月	■第4回スポーツ指導者講習会の開催 ●第4回部活動地域展開推進連絡協議会の開催 [協議① 今年度の調査アンケート作成について] [協議② 保護者等への啓発と理解促進について]
	12月	●第5回部活動地域展開推進連絡協議会の開催 [協議① 成果と課題の抽出] [協議② 財政確保（クラウドファンディング）についての現状報告] [協議③ 次年度の方向性について] ◆第4回スポーツアドバイザー招聘事業の実施 ★アンケート(意識)調査実施
	1月	★アンケート(意識)調査集計・分析
R8	2月	■第5回スポーツ指導者講習会の開催 ◆第5回スポーツアドバイザー招聘事業の実施
	3月	

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		29クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	19クラブ	
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数	10クラブ	
全体の指導者数	104人	全体の運営スタッフ数	5人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
剣道クラブ	総合型スポーツクラブ	剣道	・平日 4回 ・休日 1回	16:00～18:00 8:00～11:00	1年7人 2年3人 3年5人	令和7年4月～ 令和8年3月	6人	0人	1,000円/月	中体連：地域クラブ
ジョセフ播磨	総合型スポーツクラブ	ハンドボール	・平日 4回 ・休日 1回	16:00～18:00 8:00～11:00	1年20人 2年7人 3年19人	令和7年4月～ 令和8年3月	5人	0人	1,000円/月	中体連：地域クラブ
KIRARA	総合型スポーツクラブ	ダンス	・平日 1回	19:00～21:00	1年5人 2年0人 3年6人	令和7年4月～ 令和8年3月	2人	0人	3,000円/月	中体連：地域クラブ
ハート体操クラブ	総合型スポーツクラブ	体操	・平日 1回 ・休日 1回	18:00～20:00 13:00～15:00	1年1人 2年3人 3年0人	令和7年4月～ 令和8年3月	2人	0人	2,500円/月	中体連：地域クラブ

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		29クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）		19クラブ
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数		10クラブ
全体の指導者数	104人	全体の運営スタッフ数	5人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
水泳クラブ	総合型スポーツクラブ	水泳	・平日 1回	19:00～20:00	1年2人 2年5人 3年0人	令和7年4月～ 令和8年3月	2人	0人	1,000円/月	中体連：地域クラブ
eスポーツ	総合型スポーツクラブ	eスポーツ	・平日 1回	17:00～19:00	1年16人 2年14人 3年0人	令和7年4月～ 令和8年3月	2人	0人	2,000円/月	中体連：地域クラブ
バドミントン	総合型スポーツクラブ	バドミントン	・平日 1回 ・休日 1回	19:00～21:00 9:00～12:00	1年5人 2年2人 3年0人	令和7年4月～ 令和8年3月	3人	0人	3,000円/月	中体連：地域クラブ
播磨AC（男）	総合型スポーツクラブ	陸上	・平日 4回 ・休日 1回	16:00～18:00 8:00～11:00	1年8人 2年13人 3年10人	令和7年4月～ 令和8年3月	9人	0人	0円/月	中体連：地域クラブ
播磨AC（女）	総合型スポーツクラブ	陸上	・平日 4回 ・休日 1回	16:00～18:00 8:00～11:00	1年13人 2年18人 3年13人	令和7年4月～ 令和8年3月	9人	0人	0円/月	中体連：地域クラブ

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		29クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）		19クラブ
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数		10クラブ
全体の指導者数	104人	全体の運営スタッフ数	5人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
ソフトボールクラブ	総合型スポーツクラブ	ソフトボール	・平日 4回 ・休日 1回	16:00～18:00 8:00～11:00	1年10人 2年2人 3年4人	令和7年4月～ 令和8年3月	3人	0人	0円/月	中体連：地域クラブ
播磨中野球部 休日移行	総合型スポーツクラブ	野球	・平日 4回 ・休日 1回	16:00～18:00 8:00～11:00	1年8人 2年9人 3年7人	令和7年4月～ 令和8年3月	3人	0人	0円/月	中体連：地域クラブ
播磨南中野球部 休日移行	総合型スポーツクラブ	野球	・平日 4回 ・休日 1回	16:00～18:00 8:00～11:00	1年11人 2年8人 3年7人	令和7年4月～ 令和8年3月	2人	0人	0円/月	中体連：地域クラブ
播磨中女バレー部 休日移行	総合型スポーツクラブ	バレーボール	・平日 4回 ・休日 1回	16:00～18:00 8:00～11:00	1年8人 2年8人 3年7人	令和7年4月～ 令和8年3月	2人	0人	3,000円/年	中体連：地域クラブ

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		29クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）		19クラブ
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数		10クラブ
全体の指導者数	104人	全体の運営スタッフ数	5人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
播磨南中 女バレー部 休日移行	総合型スポーツクラブ	バレーボール	・平日 4回 ・休日 1回	16:00～18:00 8:00～11:00	1年2人 2年1人 3年2人	令和7年4月～ 令和8年3月	2人	0人	4,000円/年	中体連：地域クラブ
播磨中 男バレー部 休日移行	総合型スポーツクラブ	バレーボール	・平日 4回 ・休日 1回	16:00～18:00 8:00～11:00	1年1人 2年5人 3年4人	令和7年4月～ 令和8年3月	2人	0人	0円/月	中体連：地域クラブ
播磨中 男バスケ部 休日移行	総合型スポーツクラブ	バスケットボール	・平日 4回 ・休日 1回	16:00～18:00 8:00～11:00	1年12人 2年7人 3年10人	令和7年4月～ 令和8年3月	3人	0人	2,000円/年	中体連：地域クラブ
播磨中 女バスケ部 休日移行	総合型スポーツクラブ	バスケットボール	・平日 4回 ・休日 1回	16:00～18:00 8:00～11:00	1年11人 2年10人 3年5人	令和7年4月～ 令和8年3月	2人	0人	0円/月	中体連：地域クラブ

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		29クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）		19クラブ
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数		10クラブ
全体の指導者数	104人	全体の運営スタッフ数	5人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
播磨南中男バスケ部 休日移行	総合型スポーツクラブ	バスケットボール	・平日 4回 ・休日 1回	16:00～18:00 8:00～11:00	1年4人 2年5人 3年22人	令和7年4月～ 令和8年3月	3人	0人	0円/月	中体連：地域クラブ
播磨南中女バスケ部 休日移行	総合型スポーツクラブ	バスケットボール	・平日 4回 ・休日 1回	16:00～18:00 8:00～11:00	1年10人 2年7人 3年7人	令和7年4月～ 令和8年3月	3人	0人	0円/月	中体連：地域クラブ
播磨中サッカー部 休日移行	総合型スポーツクラブ	サッカー	・平日 4回 ・休日 1回	16:00～18:00 8:00～11:00	1年9人 2年20人 3年9人	令和7年4月～ 令和8年3月	3人	0人	0円/月	中体連：地域クラブ
播磨南中サッカー部 休日移行	総合型スポーツクラブ	サッカー	・平日 4回 ・休日 1回	16:00～18:00 8:00～11:00	1年11人 2年20人 3年8人	令和7年4月～ 令和8年3月	7人	0人	0円/月	中体連：地域クラブ

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		29クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	19クラブ	
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数	10クラブ	
全体の指導者数	104人	全体の運営スタッフ数	5人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
播磨中卓球部（男） 休日移行	総合型スポーツクラブ	卓球	・平日 4回 ・休日 1回	16:00～18:00 8:00～11:00	1年11人 2年7人 3年11人	令和7年4月～ 令和8年3月	3人	0人	0円/月	中体連：地域クラブ
播磨南中卓球部（男） 休日移行	総合型スポーツクラブ	卓球	・平日 4回 ・休日 1回	16:00～18:00 8:00～11:00	1年4人 2年4人 3年9人	令和7年4月～ 令和8年3月	3人	0人	0円/月	中体連：地域クラブ
播磨中卓球部（女） 休日移行	総合型スポーツクラブ	卓球	・平日 4回 ・休日 1回	16:00～18:00 8:00～11:00	1年5人 2年14人 3年5人	令和7年4月～ 令和8年3月	3人	0人	0円/月	中体連：地域クラブ
播磨南中卓球部（女） 休日移行	総合型スポーツクラブ	卓球	・平日 4回 ・休日 1回	16:00～18:00 8:00～11:00	1年6人 2年6人 3年3人	令和7年4月～ 令和8年3月	3人	0人	0円/月	中体連：地域クラブ

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

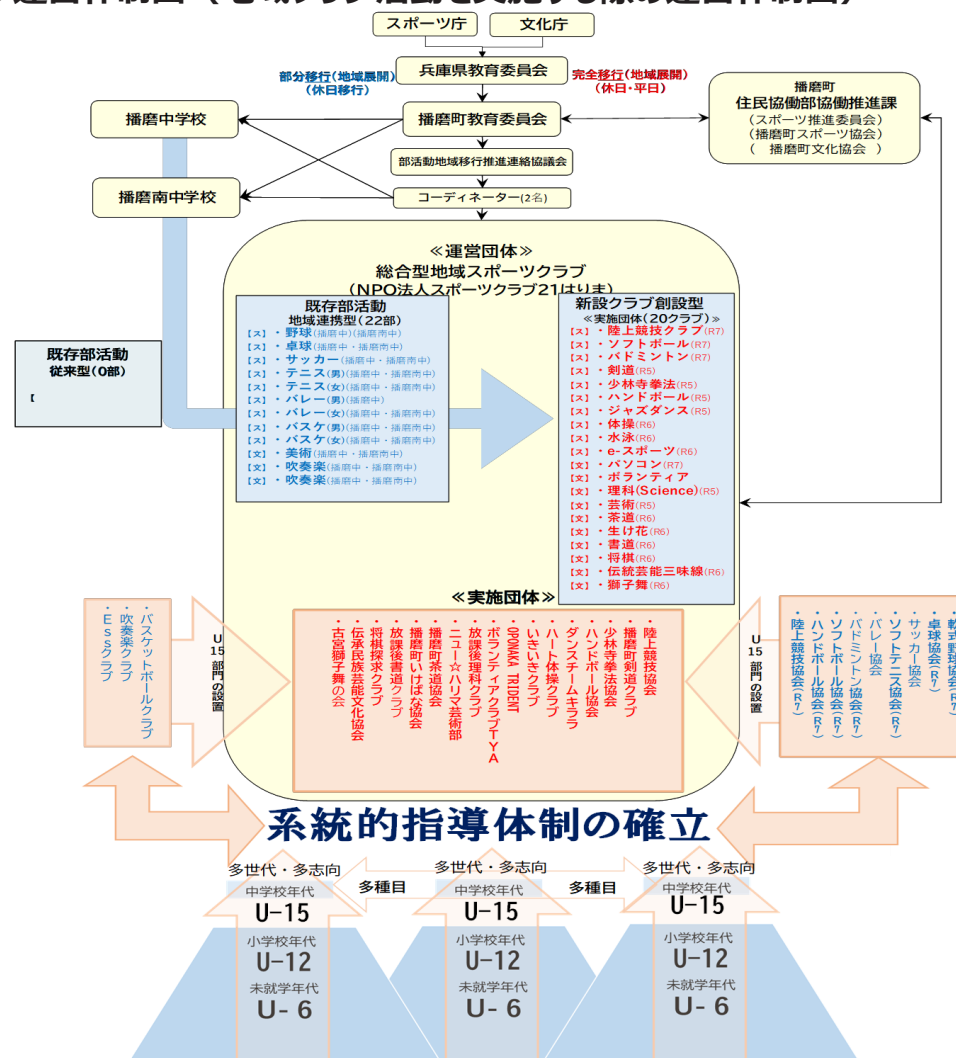
実施した地域クラブ活動総数		29クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	19クラブ	
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数	10クラブ	
全体の指導者数	104人	全体の運営スタッフ数	5人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
播磨中 男テニス部 休日移行	総合型スポーツクラブ	ソフトテニス	・平日 4回 ・休日 1回	16:00～18:00 8:00～11:00	1年7人 2年8人 3年6人	令和7年4月～ 令和8年3月	3人	0人	0円/月	中体連：地域クラブ
播磨中 女テニス部 休日移行	総合型スポーツクラブ	ソフトテニス	・平日 4回 ・休日 1回	16:00～18:00 8:00～11:00	1年14人 2年15人 3年20人	令和7年4月～ 令和8年3月	3人	0人	0円/月	中体連：地域クラブ
播磨南中 男テニス部 休日移行	総合型スポーツクラブ	ソフトテニス	・平日 4回 ・休日 1回	16:00～18:00 8:00～11:00	1年14人 2年15人 3年20人	令和7年4月～ 令和8年3月	5人	0人	0円/月	中体連：地域クラブ
播磨南中 女テニス部 休日移行	総合型スポーツクラブ	ソフトテニス	・平日 4回 ・休日 1回	16:00～18:00 8:00～11:00	1年17人 2年15人 3年23人	令和7年4月～ 令和8年3月	4人	0人	0円/月	中体連：地域クラブ

スポーツ庁

地域クラブ活動で 実施した種目	剣道、ハンドボール、ダンス、体操、水泳、 少林寺拳法、eスポーツ、バドミントン、 野球、卓球、バレーボール、サッカー、テニ ス、陸上競技、バスケットボール、ソフト ボール、
運営団体名	NPO法人スポーツクラブ21はりま
期間と日数	○新設クラブ 期間：1年間 週1回～5回 ○休日地域移行 期間：1年間 週1回
指導者の主な属性	地域指導者（会社員・在宅） 兼職兼業教職員 兼職兼業地方公務員
活動場所	学校体育施設 町立スポーツ施設 民間スポーツ施設
主な移動手段	自転車または徒歩等
1人あたりの参加会費 等（年額）	12,000円（剣道） ～ 36,000円（ダンス）
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生 徒： 800円/年 指導者：1,850円/年



2.実証内容と成果

主な取組例

●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

○統括責任者（理事長：1名）

《役割分担》

- ・受託事業における管理責任者
- ・運営団体としての機能強化（運営母体の在り方検討）
- ・9年間を見据えた系統的指導体制の確立

○主任指導者（事務局長兼クラブマネージャー：1名）

《役割分担》

- ・総務（事務処理）責任者
- ・施設管理事務を含めた総務全般の事務
- ・地域指導者との連絡調整
- ・行政（教育委員会・住民協働部協働推進課）との連絡調整等

○運営補助者（副事務局長：1名）

《役割分担》

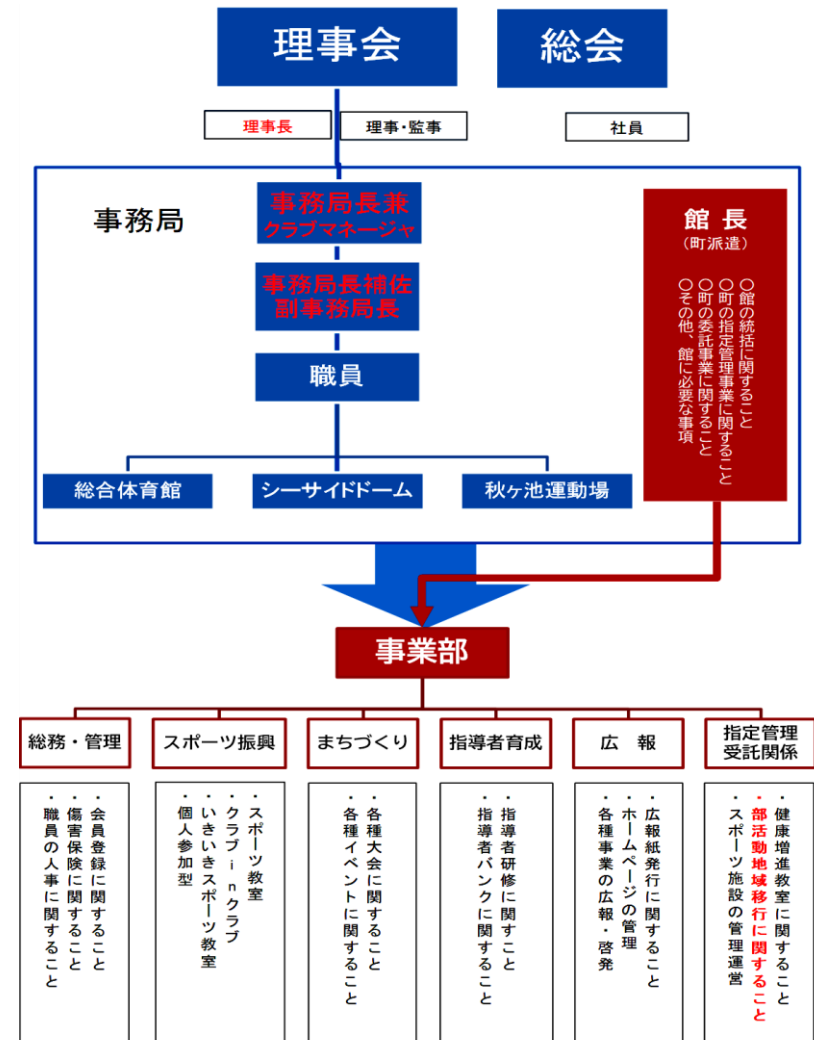
- ・会計責任者（謝金・旅費等支払い）
- ・その他、事務全般

○相談窓口（地域展開コーディネーター：1名）

《役割分担》

- ・部活動の地域展開に係る地域、保護者からの相談対応
- ・播磨町文化協会等とのコーディネート業務

令和7年度 スポーツクラブ21はりま組織図



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

「コーディネーターの取組」

- 部活動の地域展開への理解や地域指導者への参画に向けて、各中学校区に2名（スポーツ・文化芸術担当）を配置

「クラブ運営及び中間支援体制の構築の取組」

- 地域人材や民間事業者に対する設立・クラブ運営への助言等

「地域クラブ活動の運営の効率化の取組」

- 令和7年度当初より、地域指導者の労務管理や活動報告、謝金計算等のためのアプリの運用

取組の成果

「コーディネーターの取組」

- ・部活動顧問とのヒアリングを重ねることで、教職員が考える地域クラブ活動の意義を行政と学校が共有化でき、教職員の地域展開事業に対する理解促進が進んだ。
- ・地域指導者への参画に向け、人材発掘や兼職兼業制度の活用を通して、令和7年度にすべての部活動において、休日の活動が地域移行され地域クラブ活動が展開されている。

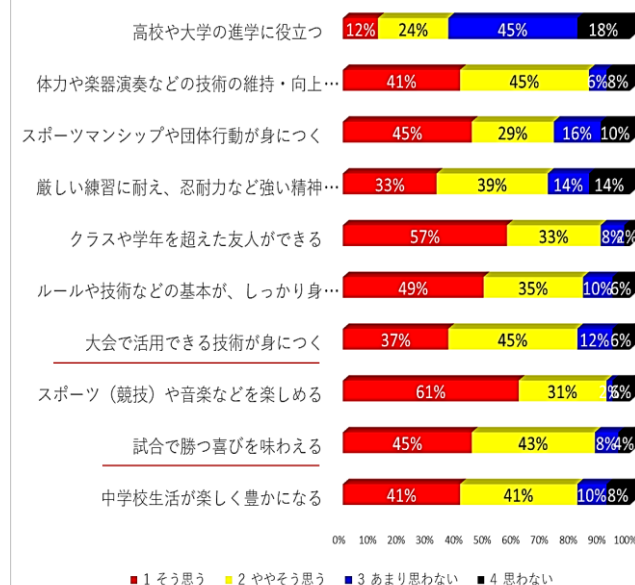
「クラブ運営及び中間支援体制の構築の取組」

- ・地域人材や民間事業者に対する設立・クラブ運営への事業説明や協力依頼等を通じた結果、令和7年度は新たに部活動になかったバドミントン、パソコンクラブが誕生し、計20クラブ（うちスポーツ10クラブ）となり、生徒の選択肢の幅が広がった。

「地域クラブ活動の運営の効率化の取組」

- ・運営団体の業務の効率化や個人情報保護の観点から、地域指導者の労務管理や指導者、保護者、生徒への連絡ツール等を開発し、令和7年度当初から運用を始めた。

地域クラブ活動の意義 「令和7年度 教職員アンケート結果より」



コーディネーターの具体的な動きの実績

- 部活動地域展開の理解促進の取組
 - ・部活動の地域展開促進を図るため、連日、学校訪問し顧問とのヒアリングを実施
- 地域指導者の参画への取組
 - ・種目協会や体育館利用サークルの代表等への説明会の開催や本事業への参画依頼

今後の課題と対応方針

- ・運営母体の再整備による機能充実
[令和9年：一般財団法人格取得 令和10年：公益財団法人格取得]
- ・系統的指導体制の構築
→組織化（令和8年、認定地域クラブ制度の導入）→スポーツ協会への加盟
- ・指導者の質の向上及び量の確保
- ・連絡ツール及び指導者管理アプリのさらなる機能充実化

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・部活動顧問とのヒアリングを重ねることで、教職員が考える地域クラブ活動の意義を行政と学校が共有化でき、教職員の地域展開事業に対する理解促進が進んだ。
- ・地域指導者への参画に向け、人材発掘や兼職兼業制度の活用を通して、令和7年度にすべての部活動において、休日の活動が地域移行され地域クラブ活動が展開されている。

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

- 運営団体の業務の効率化や個人情報保護の観点から、民間業者とアプリの共同開発、運用開始。
これまでは、各地域指導者の活動実績等を教育委員会を通して運営団体へ報告をとる体制であり、人的ミスがあった場合、その都度実施団体や地域指導者へ修正依頼等をかけるなどの大きな手間があったが、アプリの導入により、運営団体の地域指導者への報酬や旅費等の支払い、及び各種報告に係る事務負担が軽減されている。

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

- 指導者研修を通してのコンプライアンスについて理解促進（ハラスメント、適切な会計処理等）
- 行政負担で、各地域クラブの活動に必要な救急セットを配置
- 事故発生時の連絡体制を明確にし周知徹底
- 地域クラブに所属する全生徒と地域クラブで指導を行う全指導者のスポーツ安全保険への加入徹底
- 学校と連携し、必要な情報共有の徹底

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

- トラブル・事故発生時のマニュアルを地域指導者に周知するとともに、救急セットにその概要を記したカードを添付
- トラブルや事故等の対応を含め管理責任の明確化
- 事故等が発生した場合における保護者や関係機関等との適切な連絡手順の周知徹底

スポーツ庁

指導者ランク毎の人数内訳
(スポーツ)

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組の成果

【指導者の質の保障】

○年間5回の悉皆研修会を行うことで質の向上に努めた結果、受講者の満足度は85.5%と良好な結果
(地域クラブ指導者研修会 受講者アンケート結果より)

○指導者資格取得助成制度の活用が10人であり、国域の有資格者の養成に尽力

【指導者の量の確保】

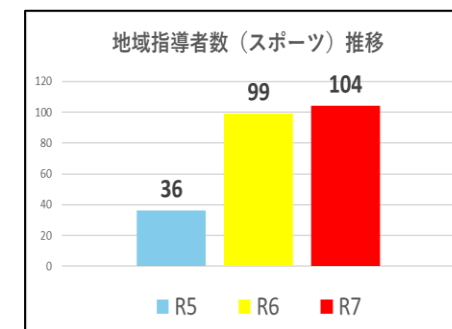
○公募ではなく、人の繋がりによる他薦を中心に行い、面接を通して委嘱・任命

○学生スタッフについては、連携協定を締結している大学へ依頼して申込みしてもらい、面接を通して委嘱

○教員だけの指導にならないよう、地域のみならず、企業や大学との連携を進め、優秀な指導者の確保に尽力

○適切な対価を提示することで指導者の確保に尽力

(国域A1：¥2,400、国域A2：¥2,000、県域B：¥1,600、地域C：¥1,200)



出典

* 令和8年度播磨町地域指導者名簿

(2) 重点地域項目		R7年度目標値	結果	達成率	評価
⑤ トレーナーの活用を含めた安全確保の体制構築				146.9 %	S
○年間5回開催予定の指導者講習会の参加者満足度	肯定的意見：85.5%、否定的意見：14.5%	80 %以上	85.5 %	106.9 %	S
○公認スポーツ資格取得者数(助成予定含む)	陸上2、卓球1、バレー1、野球1、バスケット1、サッカー2、ソフトボール1、バドミントン1	5 名以上	10 名	200.0 %	S

今後の取組における課題

- ・研修会参加者の満足度は多いものの、毎回兼職兼業教師の参加が少ない。
- ・地域指導者と兼職兼業教師のさらなる連携促進が必須である。
- ・時代のニーズに合わせて研修会の内容を考えていく必要がある。
- ・部活動地域展開事業が進んでいくにつれて、更なる指導者の確保が必要である。

課題への対応方針

- 学校行事を的確に把握し、早期の日程調整により案内をすることが必須
- コーディネーターが面接等で教師の意識改革の促進が必要
- 次年度以降は悉皆研修とし、参加率の向上が必要
指導者が参加しやすいよう、リアル開催とオンライン開催のハイブリッド型の開催方法等、工夫が必要

指導者研修会 *主催：NPO法人スポーツクラブ21はりま		
(対象) ・地域クラブ指導者・中学部活動顧問・NPO法人スポーツクラブ21はりま登録団体指導者		
開催月	研修名	内容
5月	第1回スポーツ指導者講習会	地域クラブ組織基盤強化に向けて
7月	第2回スポーツ指導者講習会	熱中症対策
9月	第3回スポーツ指導者講習会	中学生の自主性を引き出す指導法とは
11月	第4回スポーツ指導者講習会	中学生の身体的特徴を踏まえた指導法とは
2月	第5回スポーツ指導者講習会	チームビルディング

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

大学の知見の活用

○地域指導者研修会での講師

大学が所有する人的支援の促進（学生・教授・職員等）

○地域クラブに、連携大学の運動部員が地域指導者となり指導に従事、競技力の向上の推進

○連携大学への当該地域展開事業の趣旨説明を行い、スタッフ募集のチラシ等の配布・掲示等の啓発活動を通して、学生の地域指導者スタッフを募り、指導者の量の確保に尽力

指導者の質の向上

○指導の質向上を図るため、国域の資格取得にかかる助成を予算の範囲内で実施

資質向上事業

○町域の指導者講習会を悉皆研修会に位置づけ、指導者の質の向上に尽力

諸謝金の差別化

○指導者の意欲高揚に向け、資格等により指導者謝金を3段階から4段階へ拡大

教職員の兼職兼業制度の活用促進

○熱意や指導力がある教職員に対し、兼職兼業制度を活用し、地域指導者として今後も活動を続けてもらえるよう、兼職兼業の許可を促進

連携大学の学生の指導者スタッフとしての登用促進

○連携大学への当該地域展開事業の趣旨説明を行い、スタッフ募集のチラシ等の配布・掲示等の啓発活動を通して、学生の地域指導者スタッフを募り、指導者の量の確保に尽力。（再掲）

指導者発掘に向けた、各種サークル等との連携

○指導者マッチング作業の取組推進

指導者研修の内容

指導者研修会 ＊主催：NPO法人スポーツクラブ21はりま

（対象）

・地域クラブ指導者 ・中学部活動顧問 ・NPO法人スポーツクラブ21はりま登録団体指導者

開催月	研修名	内容	講師
5月	第1回スポーツ指導者講習会	地域クラブ組織基盤強化に向けて	流通科学大学 与那覇 秀典 氏
7月	第2回スポーツ指導者研修会	熱中症対策	保健師 看護学博士 笠谷 武史 氏
9月	第3回スポーツ指導者講習会	中学生の自主性を引き出す指導法とは	流通科学大学 内田 達介 氏
11月	第4回スポーツ指導者講習会	中学生の身体的特徴を踏まえた指導法とは	流通科学大学 魚田 尚吾 氏
2月	第5回スポーツ指導者講習会	チームビルディング	流通科学大学 高橋 宏斗 氏

指導者研修受講者の声

●参加者の声

- ・日頃からの連絡体制や安全配慮についても考えさせられる良い機会となりました。
- ・良いところを伸ばしていけるよう日々、努力しようと思います。
- ・褒めることの大切さを改めて考えさせてもらいました。
- ・チームの良い点を見つけられるような指導をしていきたいです。
- ・実技をもって実際の指導現場におけるトレーニング法に役立つ講義内容でした。今後の指導に活かしていきたいです。

●指導者講習会満足度



■ 満足している ■ 満足していない

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

指導者の資格取得促進に向けた取組

- 適切な対価を提示することで指導者の確保に尽力
(国域A1：¥2,400、国域A2：¥2,000、県域B：¥1,600、地域C：¥1,200)
- NFの資格取得の活用
 - ・指導の質向上を図るため、国域の資格取得にかかる経費の助成を予算の範囲内で実施
- 謝金額の差別化
 - ・指導者の意欲高揚に向け、資格等により指導者謝金を3段階から4段階へ拡大
(国域A1：¥2,400、国域A2：¥2,000、県域B：¥1,600、地域C：¥1,200)【前掲】

指導者総数（スポーツ）	104人
資格所持指導者数	10人
本年度資格を取得した指導者	3人

(2) 重点地域項目		R7年度目標値	結果	達成率	評価
○公認スポーツ資格取得者数(助成予定含む)	陸上2、卓球1、バレー1、野球1、バスケット1、サッカー2、ソフトボール1、バドミントン1	5名以上	10名	200.0 %	S

平日・休日の一貫指導に関する取組

- 民間企業の部活動アプリを令和7年度より運用開始し、地域指導者と学校教員との間で活動内容の共有等の推進
- 今後は、アプリ機能のさらなる充実化を目指し、指導者からの要望や意見等を集約し、業者と連絡を密にしながら、より円滑な連携促進
- 学校と連携し、必要な生徒の体調や生徒指導面等での情報共有等を推進する中、連携の強化促進
- 各実施主体で指導のあり方の統一について協議することへの推進

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

(1) ニーズに応じた新設クラブの創設

○アンケート調査で生徒が多かったバドミントンクラブやパソコンクラブの創設

(2) 多彩なプログラムの提供

○運営団体が企画する夏休みイベント「あおぞらスプラッシュ」の体験教室等の開催

(3) 持続可能な運営基盤の構築

○団体の組織強化及び内容充実等を図るため、庁内に検討委員会を立ち上げ、一般財団法人格の取得から（令和9年度中）、公益財団法人格の取得（令和10年年度中）を目標に町当局とNPO法人との各種取組を調整→次の定期的な対面の調整を実施

①町長協議 ②財政協議 ③運営団体（SC21）と協議 ④実施団体へのヒアリング

(2) 多彩なプログラムの提供

運営団体が主催し、多種目・多世代・多志向で誰もが楽しめる活動を提供した。



3on3大会



オータムフェス



あおぞらスプラッシュ

(3) 持続可能な運営基盤の構築

【運営団体（総合型地域スポーツクラブのNPO法人スポーツクラブ21はりま）】

「認知度・信頼性の向上」

・（公財）日本スポーツ協会認証制度の登録（令和5年取得）

「組織再編」

・機構改革による各種事業部改正を確立（令和5年6月理事会承認）

〔新設：地域部活動推進事業部、指導者育成部、まちづくり部、広報部〕

・運営団体にもコーディネーター1名配置

・定期的に学識経験者をアドバイザーとして招聘

・地域展開の持続可能性に向けたさらなる組織強化策を検討

〔令和9年：一般財団法人格取得、令和10年：公益財団法人格取得〕

【実施主体（競技団体等）】

「認定地域クラブ制度の導入」

・安全安心な活動機会の提供

・生徒、保護者等の関係者の理解促進等

・組織での対応促進〔規約の策定、事業計画の作成、収支及び決裁書の作成、他〕

・町長協議：2週間に1回程度

・財政協議：2週間に1回程度

・運営団体（SC21）と協議：1週間に1回程度

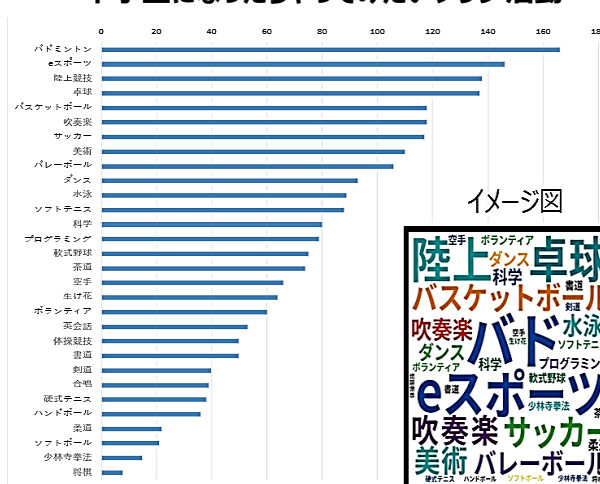
・実施団体14種目：ヒアリング

取組の成果

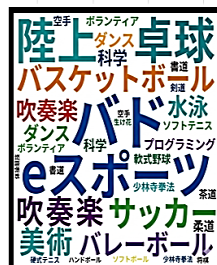
(1) ニーズに応じた新設クラブの創設

生徒のニーズを踏まえ、連携型クラブから移行及び新設数の目標値（4クラブ）を超える6クラブを移行及び新設した。今後、各クラブの質を高め、所属生徒が充実したクラブライフを送れるように努める。

中学生になったらやってみたいクラブ活動



イメージ図



調整会議の開催状況

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



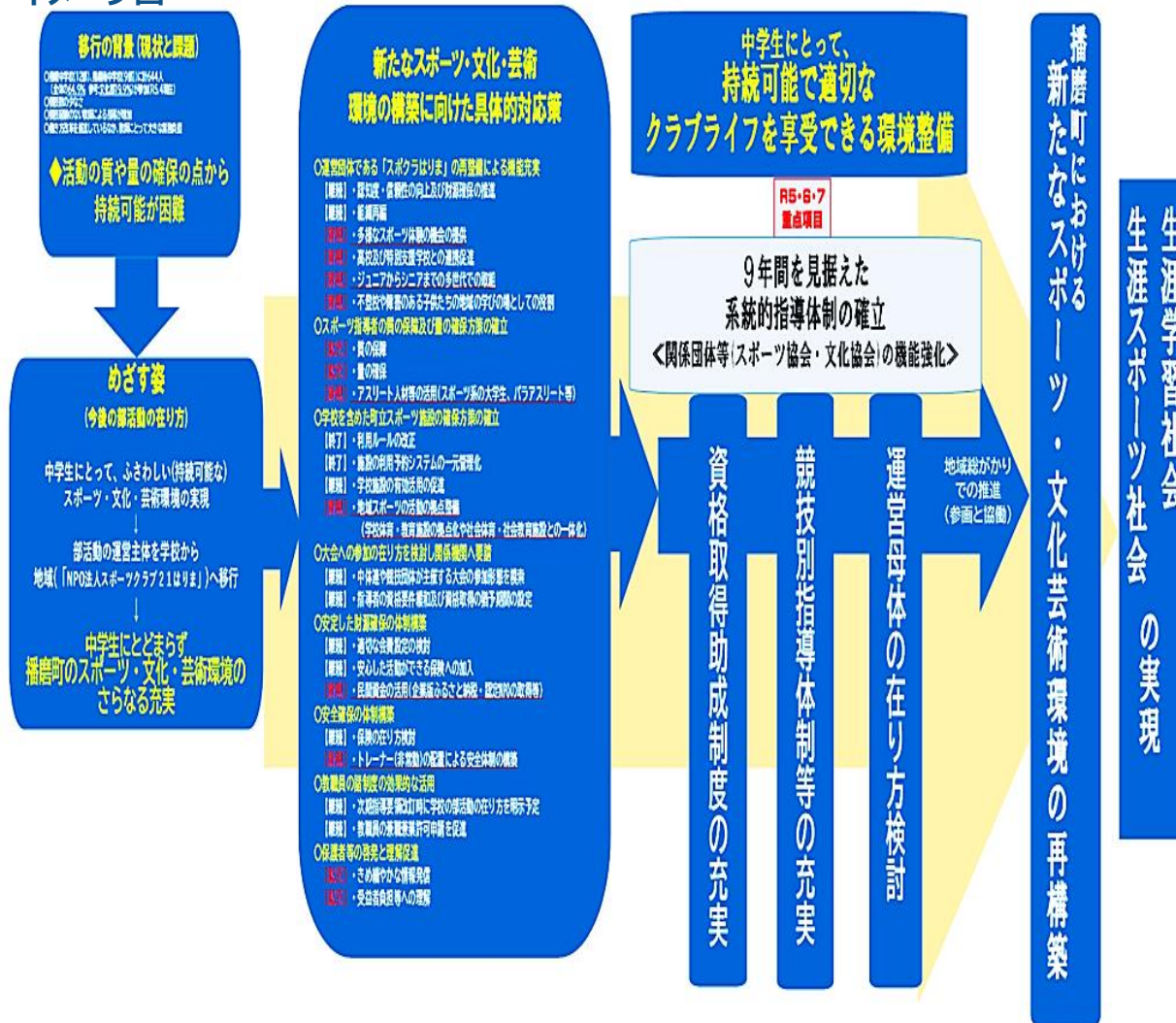
取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

今後の取組における課題と対応方針

- 運営母体であるNPO法人スポーツクラブ21はりまの再整備による機能充実や大学との連携強化を図る中で、生徒が興味のある分野について、幅広い選択肢の中から安全、安心、そして楽しみを感じられるクラブを選べるようにし、一人ひとりにとって充実したクラブライフを送れる環境整備に努める。
- 併せて、今後（令和7年度末迄）の認定地域クラブ制度の導入を見据え、系統的指導体制が整った競技種目から順次地域展開を図ることとするので、個人での指導体制ではなく、複数人によって組織化された団体やスポーツ協会等に参加している協会を実施主体として位置づけ、運営体制を構築する。
- そのために、関係機関や団体等と連携を深め、本事業に対する趣旨の理解を促進するとともに生徒のニーズに応じた活動実施団体等の設立やプログラムの開発等に取組むこととする。

イメージ図



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

地域公共交通との連携に関する取組

- ・市内の居住地面積（3km×2km）が狭く、その中に2中学校しかないで公共交通の運航実績はなし。
地域クラブ活動で移動する際、生徒は自転車を使って移動している。

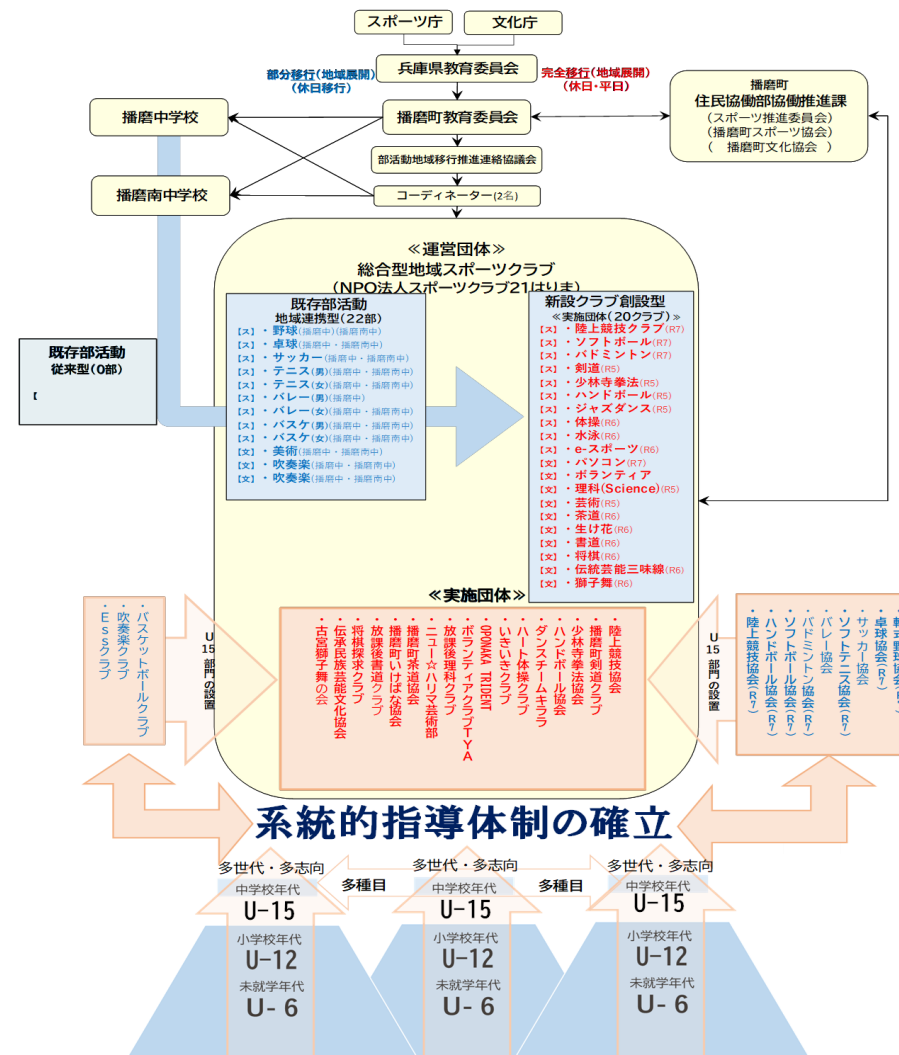
関係団体等との連携に関するスポーツ推進委員の取組

- 学校との連携促進
 - ・部活動地域展開に向け、地域連携型クラブ（休日移行）から創設型クラブ（完全地域移行）にむけ、本事業の趣旨等の説明会の開催
- 教員の働き方改革の取組推進
 - ・休日の活動を地域指導者との役割分担の明確化
- 競技団体や民間団体等の連携促進
 - ・スポーツ協会加盟等の種目団体との個別説明会の開催
 - ・民間スポーツ団体への本事業説明会の開催を通じた事業参画依頼

まちづくりと連携した取組

- 運営団体の一元管理
 - ・部活動地域展開事業を推進する中で、すべての地域クラブの実施主体を運営団体である「NPO法人スポーツクラブ21はりま」が一元管理し、地域と関係団体が一体となり、行政主導で播磨町における新たな生涯スポーツ・生涯学習社会の実現を目指した体制を構築している。
- 今後の将来像
 - ・そして、地域クラブで育った子どもが、のちに指導者としてもどってくるといふ人材育成と人材確保の好循環を創出し、地域クラブという好循環で持続可能な運営形態を構築を目指している。この好循環により、子どもだけではなく、地域全体の活性化にもつながることを期待している。

運営体制図



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

- 生徒のニーズ（志向）に応じた多種多様なスポーツの体験を提供
- 既存部活動を完全に地域移行するとともに、新たな地域クラブの創設
- 県内大学（国立・県立・私立）や町外の関係団体、民間団体等との連携強化

各自治体の役割

- 生徒のニーズに応じた多種多様なスポーツ活動体験を提供するための新たな地域クラブの創設
- 定期的な児童生徒、保護者、教職員へのアンケート調査を実施し現状把握につとめ適切に分析検証
- スポーツ活動と文化芸術活動との両方に参加できる体制整備

移動手段

- 自転車による移動
- 徒歩による移動
- 学校関係者、保護者等の関係者を委員とした自転車通学検討委員会の設置、部活動地域展開事業を含めた今後の自転車通学の在り方についての検討
- その他

事務局運営の方法

- 教育委員会に2名のコーディネーターを配置することにより、本事業に対する関係者のさらなる意識の変容の取組推進
- 運営団体「NPO法人スポーツクラブ21(はりま)」に、地域展開事業担当コーディネーターを配置することで、運営団体・実施主体の機能の充実化

取組の成果

・スポーツ協会や民間団体の参画を得て、スポーツ系地域クラブを新たに2クラブ（バドミントン、ヒップホップダンス）を創設し、生徒のニーズに対応した活動母体の選択肢を増やせたり、小学校時代から継続して取組めるようになったり、系統的指導体制が整備されつつある。

市区町村等を越えた取組

- 部活動の地域展開に関する2市2町連絡会議の開催（7月）
- ・今後、他市町の状況を見ながら取組の在り方を検討

今後の課題と対応方針

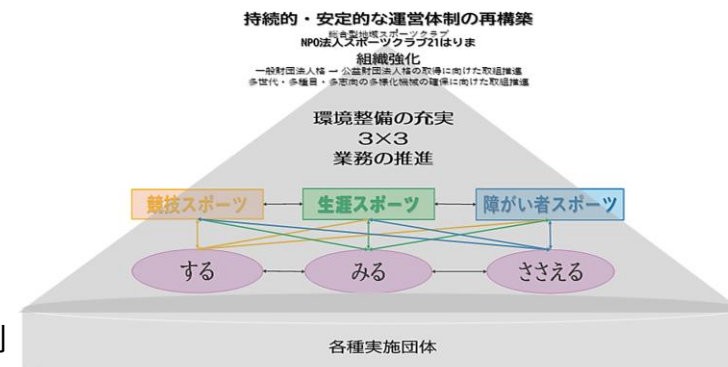
「課題」

- 兼職兼業教員の意識改革
- 運営団体の機能充実と組織再編
[令和9年：一般財団法人格取得、令和10年：公益財団法人格取得]

「対応方針」

- 中学校教員のさらなる意識変容に向け、コーディネーター中心に学校との協力体制の構築
- 団体の組織強化及び内容充実等を図るため、庁内に検討委員会を立ち上げ、財団法人格の取得から（令和8年度中）、公益財団法人格の取得（令和10年度中）を目標に町当局とNPO法人との各種取組を調整し、次の定期的な対面の調整を実施
①町長協議 ②財政協議 ③運営団体（SC21）と協議 ④実施団体へのヒアリング

目指す姿（イメージ図）



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

- 「誰もが楽しめるレクリエーション活動」の提供
 - ・運営団体であるスポーツクラブ21はりまが主催となって、「多彩なプログラム」として、様々なイベントや体験会を開催する。
- 「生徒のニーズに応じた多種目・多世代・多志向な活動」の提供
 - ・スポーツから文化芸術まで、学校部活動にはなかったような種目・分野を新設し、一体的に推進する。

取組の成果

- ・運営団体が主催し、多種目・多世代・多志向で誰もが楽しめる活動が展開できた。



3on3大会



オータムフェス



あおぞらスプラッシュ

参加者の声

- ・「うみえーるあおぞらスプラッシュ」では、町内外からファミリーや若い世代が集まり、会場は活気にあふれていました。毎年恒例のイベントですが、今年も多く参加者でにぎわい、地域のつながりを感じるひとときとなりました。
(地域指導者)
- ・試合を楽しむ子どもたちや応援する家族の姿に、スポーツの持つ力を感じました。
(保護者)

- ・アンケート調査で生徒が多かったバドミントンクラブを新たに創設
元々学校部活動であった陸上競技部やソフトボール部が平日・休日ともに地域展開し、令和7年度より地域クラブとしてスタートした。
また、地域クラブへの移行数や新設数、既存部活動数、クラブ員の満足度における令和7年度の目標値を超える数値を得られた。



バドミントン



陸上



ソフトボール

(1) 実証事業項目	R7年度目標値	結果	達成率	評価
○連携型クラブから地域クラブへの移行及び新設数	4 部	6 部	150.0 %	S
○新設クラブ及び連携型クラブへ移行後の既存運動部数	0 部	0 部	100.0 %	S
○地域クラブ及び連携型クラブ員へのアンケート調査による満足度	85.0 %以上	91.1 %	107.2 %	S

参加者の声

- ・自分のやっている競技を一生懸命に活動したときの達成感や喜びを味わいたいです。そして、競技独自の楽しさをもっと追求したいです。
(中学1年)
- ・地域クラブの活動をすると、さわやかな気分になり、夢中になって活動するときの感覚が心地良いです。地域クラブの活動を通して、自分の競技力をあげて、もっと上手になりたいです。
(中学2年)

今後の課題と対応方針

地域展開の持続可能性に向けたさらなる組織強化策を検討する必要がある。
今後、各クラブの質を高め、所属生徒が充実したクラブライフを送れるように努める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

○保護者に地域クラブ活動に係る月会費の適切な価格についてのアンケートを実施
○その他、運営団体に係る保護者、指導者の負担金及び保険料は以下の通り徴収
【平日も含め完全地域移行した団体】

《保険料》

◆指導者（推奨）・・・1,850円/年

◆子ども（必須）・・・令和8年度以降800円 * 令和7年度は播磨町が半額負担

《スポーツクラブ》

◆指導者（必須）・・・入会金1,000円 年会費2,000円/年

◆子ども（必須）・・・入会金1,000円 年会費1,500円/年

【土日のみ地域移行した団体】

《保険料》

◆指導者（推奨）・・・1,850円/年

◆子ども（必須）・・・令和8年度以降800円 * 令和7年度は播磨町が全額負担

《スポーツクラブ》

◆指導者（必須）・・・入会金1,000円 年会費2,000円/年

◆子ども（必須）・・・入会金1,000円 年会費1,500円/年

取組の成果

各家庭に対し、部活動が完全に地域クラブへと展開した際にかかる月額について調査した。調査項目は「高いと思う価格帯」「安いと思う価格帯」「高すぎて払えない価格帯」「安すぎて疑わしい価格帯」であった。

調査結果より、播磨町として適切な保護者月額負担額を約1,500円～約3,000円程度の設定を想定することができた。



今後の課題と対応方針

《課題》

- 保険料等に関して、受益者負担額が令和8年度より増加するため保護者の理解促進の必要性。
- 生活困窮世帯への支援に関して検討し、令和8年度から取組む必要性。

《対応方針》

- ・新入生説明会や各クラブでの保護者会及び町が発行するリーフレット等を用いて丁寧に保護者へ説明し、理解促進を図る。
- ・生活困窮世帯への支援を運営団体に係る費用、保険料と想定し、首長部局とも協議の上で早急に決定する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

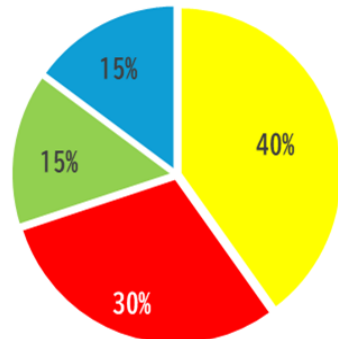
収支バランス

地域展開事業における受益者の負担を極力減らしている分、事業のほとんどが公的負担に頼っている状況。今後、企業版ふるさと納税やクラウドファンディングの制度を充実させ、企業協賛も獲得するための広報等を積極的に行っていく予定である。

持続可能な運営に必要な受益者負担額の試算

将来的に持続可能な歳入構造

めざす歳入構造



■ 公費(国県町)
■ 受益者負担
■ 企業等協賛
■ 企業版ふるさと納税・CF

○受益者負担 : 30%
○公的負担 : 40%
○企業協賛 : 15%
○ふるさと納税及びCF : 15%

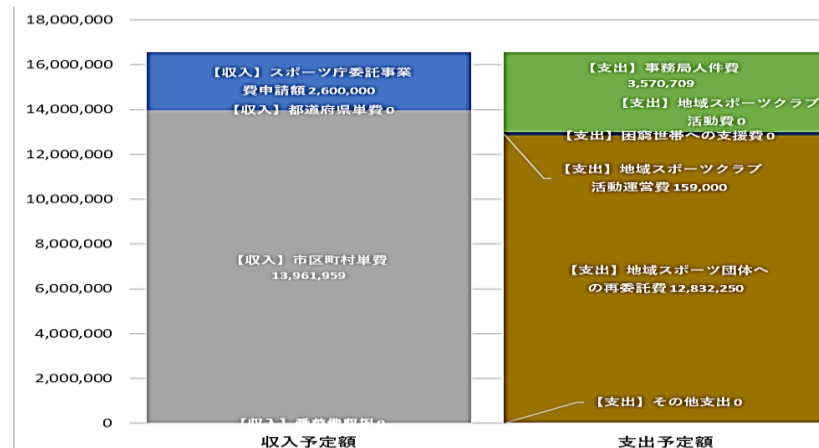
●収入

項目	費用	割合
公費(県委託)	14,590,000	51.0%
公費(町)	9,254,410	32.2%
事務局運営費	4,801,607	16.8%
合計	28,646,017	—

●支出

項目	費用	割合
地域クラブ活動費	23,844,410	83.2%
諸謝金(指導者)	19,104,300	66.7%
会場使用料	0	—
消耗品費	0	—
印刷製本費	0	—
交通費	1,568,907	5.5%
雑役務	0	—
生徒保険料	565,600	2.0%
指導者保険料	0	—
振込手数料	381,370	1.3%
一般管理費	2,167,673	7.5%
消費税相当額	56,560	0.2%
事務局運営費	4,801,607	16.8%
謝金	0	—
会場使用料	0	—
スポーツ教室開催費	0	—
保険料	0	—
人件費	2,498,450	8.8%
交通費	183,820	0.6%
印刷製本費	92,400	0.3%
消耗品費	1,515,712	5.3%
備品購入	511,225	1.8%
通信運搬費	0	—
修繕料	0	—
合計	28,646,017	—

将来的に持続可能な収支構造 地域スポーツ活動にかかる収支構造 《令和7年》



《歳入》

○受益者負担 : 30% ○公的負担 : 40%
○企業協賛 : 15% ○ふるさと納税及びCF : 15%

《歳出》

○再委託費 : 70% ○事務局人件費 : 20%
○活動運営費 : 8% ○困窮世帯支援金 : 2%

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- 地域展開クラブの施設使用の優先利用及び使用料減免(全額)制度の構築
- 設備、備品等の管理及び利用規程の整備
- 自転車通学に関する検討委員会の開催
- 地域クラブ活動に参加するために自転車を使用する生徒に対しての自転車通学交通安全教室等の開催
- 学校使用条例等の改正

取組の成果

- ・学校使用条例の一部を改正し、平日・休日ともに完全地域展開されたクラブが朝練や放課後の時間帯にも活動が可能となった。
- ・地域スポーツクラブの活動の継続的で安定的な活動によるスポーツ活動のさらなる促進が図られた。
- ・学校と地域クラブ備品等の分けや利用ルールの制定、適切な管理体制の基盤が確立された。
- ・自転車通学に関する検討委員会を年3回実施し、今後の自転車通学についてのアンケート調査を保護者・生徒向けに実施した。
- ・自転車の使い方に関する交通安全講習会を生徒向けに実施した。

完全地域展開した陸上クラブ、ハンドボールクラブの活動の様子



今後の課題と対応方針

《課題》

- 学校施設における不審者対応
- 生徒の移動手段である自転車置き場の確保
(令和9年：制度設計予定)
- 自転車通学におけるルールの制定

《対応方針》

- 門扉及び体育館の学校施設の開閉方法についてのスマートキー等の導入の検討に向けた設計業務の取組
- 生徒の移動方法(自転車)への対処策としての自転車置き場設計業務の取組
- 自転車通学に関し、警察等とも連携を図る中でのルールの明確化

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

改革推進期間（段階的移行期間）後の完全地域展開を見据えて、次の項目に取組んだ。
○平日のすべての部活動についても地域クラブ活動に地域展開し、地域での活動できる体制の構築

○地域クラブの活動日数を平日は2日程度に削減し休日中心の活動とし、週当たり11時間を限度とした活動の実施
○指導者の確保の点から地域クラブの活動時間帯を夜間に変更

取組の成果

- 新設クラブが、4クラブ（男女陸上、ソフトボール、バドミントン）増え10クラブに増設
- 休日展開の地域連携型クラブが、10部（令和5年）から19部に増加し、既存部活動が9部（令和5年）から0部となった
- 活動時間を平日放課後だけでなく、夜間（19時～）に変更し活動を開始するクラブの出現
 - ・男子バレー ・男子バスケット ・サッカー
 - ※ 現状は、運営体制図参照

指導者の属性や配置の工夫

- 指導者の属性
（スポーツ：104名、文化：36名）
 - ・地域指導者：83名
 - ・兼職兼業教員：54名
 - ・兼職兼業公務員：3名

- 配置の工夫
 - ・面接実施の上、適切に配置
 - ・平日（夕方・夜間）、休日等の希望を考慮し練習計画に基づき配置

一貫指導に関する部活動顧問との連携事例

本町では、中学生が持続可能で適切なクラブライフを送れる環境を整備するため、小学生からの『9年間を見据えた系統的指導体制の確立』を目指している。

そのため、子ども達を地域の組織で見守ることを最重要課題として取組んでいる。現在、その体制が整備されているのは次の実施団体である。

「新設・創設クラブ」
・剣道 ・ハンドボール ・ダンス ・体操 ・水泳
・e-スポーツ ・陸上 ・ソフトボール ・バドミントンの地域展開されているクラブである。

「地域連携型」※休日展開19部

実施団体の組織が整備された段階で、完全（平日）展開する予定である。

播磨町が目指す縦・横の指導体制イメージ

系統的指導体制の確立



今後の課題と対応方針

「課題」

○地域指導者が参画できる時間帯と活動場所の確保

「対応方針」

○平日の放課後から夜間に変更するとともに、将来的に活動場所の確保の点から学校施設（運動場・テニスコート）の照明設備の導入し、それに伴う活動時間、場所の確保に努める。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

«実施事業項目»

○連携クラブ（休日地域クラブ）から地域クラブへの移行数及び新設クラブ数

- ・新設クラブが6つ誕生し合計20クラブとなり、目標値の4クラブを超える結果となった。

○既存部活動数

- ・既存部活動が0となり、すべての部活動において平日または休日展開が完了した。

○生徒の満足度調査

- ・91.1%の肯定的意見があり、目標値の85%を大きく上回った。

«重点地域項目»

- ・8分類17項目の設定数値目標のうち、次のような結果となっている。

- ・5分類 : S評価（達成率100%以上）
- ・1分類 : A評価（達成率 80%以上）
- ・1分類 : B評価（達成率 60%以上）
- ・1分類 : C評価（達成率 60%未満）
- ・13項目 : S評価（達成率100%以上）
- ・2項目 : B評価（達成率 60%未満）
- ・2項目 : C評価（達成率 60%未満）

- ・C評価の体育会系の大学生アシスタントスタッフの登用数では、目標値15人以上であったが8人にとどまり下回っている。

- ・C評価のクラウドファンディング型ふるさと納税及び企業版ふるさと納税の納付額では、目標値100万円以上であったが2万円にとどまり大きく下回っている。

- ・今後は、連携大学をはじめ近隣及び神戸地区の大学に募集する等、周知方法を工夫し登用数を増やしていくこととする。また、クラウドファンディング型ふるさと納税等についても周知等、広報活動を積極的に幅広く展開していくこととする。

※詳細は、次頁の「令和7年度達成目標及び達成状況」を参照

●成果の評価

- ・総括で述べたように当初掲げた数値目標は概ね達成できたが、短期目標である生徒の選択肢を増やし多様なスポーツ活動の環境づくりの「新設クラブ数」は順調に伸びている。
- ・しかし、休日移行（地域連携型）、さらには完全地域展開（地域クラブ）へと社会体育へ移行するには、運営団体及び実施団体の機能強化が急務である。
- ・この課題を解決するため、運営母体の組織強化や指導者の質の向上、量の確保の充実、競技別指導体制の充実等、新たなスポーツ環境の整備を地域総がかりで推進していかなければならないと考える。

●今後に向けて

- ・中学生にとって、持続可能で適切なクラブライフを送れる環境整備に向けて、小学生から9年間を見据えた系統的指導体制の確立を目指して、運営団体、スポーツ協会及び実施団体の機能強化が喫緊課題と考える。
- ・このためには、指導者や運営スタッフをはじめ地域クラブ活動を支える人材育成システム等の仕組みづくりが必要と考える。
- ・また、本町は本事業を子育て重要施策の一つとして位置づけ推進しているが、今後将来的に持続可能な事業とするため、運営経費、受益者負担及び公的資金の適切なバランスを検証していく必要がある。

2.実証内容と成果②

令和7年度達成目標及び達成状況

S…十分に達成(達成率:100%以上) A…ほぼ達成(達成率:80%以上) B…やや不十分(達成率:60%以上) C…不十分(達成率:60%未満)

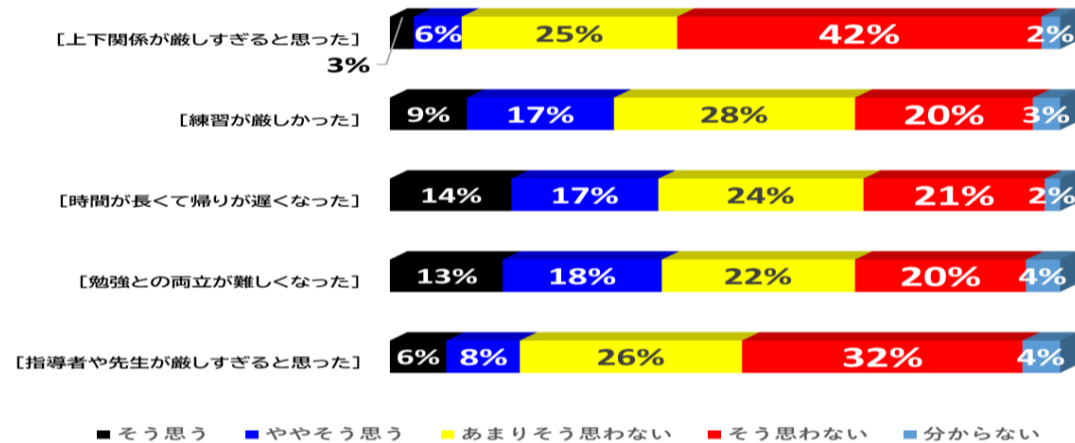
(1) 実証事業項目		R7年度目標値	結果	達成率	評価
○連携型クラブから地域クラブへの移行及び新設数	新設1+R7移行済3=4	4 部	6 部	150.0 %	S
○新設クラブ及び連携型クラブへ移行後の既存運動部数		0 部	0 部	100.0 %	S
○地域クラブ及び連携型クラブ員へのアンケート調査による満足度	5項目平均値:91.1%	85.0 %以上	91.1 %	107.2 %	S
(2) 重点地域項目		R7年度目標値	結果	達成率	評価
① 多様なスポーツ体験の機会の提供				119.1 %	S
○連携型クラブから地域クラブへの移行及び新設数	新設1+R7移行済3=4	4 部	6 部	150.0 %	S
○新設クラブ及び連携型クラブへ移行後の既存運動部数		0 部	0 部	100.0 %	S
○地域クラブ及び連携型クラブ員へのアンケート調査による満足度	5項目平均値:91.1%	85.0 %以上	91.1 %	107.2 %	S
② 高校(県立播磨南高等学校)及び特別支援学校(県立東はりま特別支援学校)との連携促進				80.0 %	A
○多世代型イベントの年間開催数 5回	卓球、RR、3on3	5 回	3 回	60.0 %	B
○多世代合同練習会の開催競技種目数	ハンド、剣道、少林寺、陸上、バドミントン	5 競技等	5 競技等	100.0 %	S
③ ジュニアからシニアまでの多世代での取組				103.3 %	S
○連携型クラブから地域クラブへの移行及び新設数(再掲)	新設1+R7移行済3=4	4 部	6 部	150.0 %	S
○多世代型イベントの年間開催数(再掲)	卓球、RR、3on3	5 回	3 回	60.0 %	B
○多世代合同練習会の開催競技種目数(再掲)	ハンド、剣道、e-スポーツ、陸上、男子バレー	5 競技等	5 競技等	100.0 %	S
④ 不登校や障害のある子供たちの地域の学びの場としての役割				109.7 %	S
○不登校や障害のある児童生徒を対象とした地域の学びの場の確保数	各コミセン・中公・ふれあい:6、民間(e-Sports):1	7 カ所	7 カ所	100.0 %	S
○地域の学びの場への不登校や障害のある児童生徒の参加数	コミセンサテライト:74、ふれあい:104、e-Sports:180	300 人以上(延べ)	358 人以上(延べ)	119.3 %	S
⑤ トレーナーの活用を含めた安全確保の体制構築				146.9 %	S
○年間5回開催予定の指導者講習会の参加者満足度	肯定的意見:85.5%、否定的意見:14.5%	80 %以上	86 %	106.9 %	S
○公認スポーツ資格取得者数(助成予定含む)	陸上2、卓球1、バレー1、野球1、バスケット、サッカー2、ソフトボール1、バドミントン1	5 名以上	10 名	200.0 %	S
⑥ アスリート人材等の活用(体育・スポーツ系の大学生、パラアスリート等)				76.7 %	B
○体育会系大学生等をアシスタントスタッフとしての登用数	ソフトテニス1、バスケット2、ハンド2、剣道1、野球1、サッカー1	15 名以上	8 名	53.3 %	C
○大学教授等による各競技別教室(クリニック)の年間開催数	流科大:生徒1 回、指導者1回 トップA:生徒1回	3 回以上	3 回	100.0 %	S
⑦ 地域スポーツの活動の拠点整備(学校体育・教育施設の拠点化や社会体育・教育施設との一体化)				106.7 %	S
○学校体育施設及び町立スポーツ施設における地域スポーツクラブの優先利用等の制度確立(拠点施設数)	学校体育施設:12 公共スポーツ施設:3	15 施設以上	16 施設	106.7 %	S
⑧ 民間資金の活用(企業版ふるさと納税等を含む)				2.0 %	C
○クラウドファンディング型ふるさと納税及び企業版ふるさと納税 《部活動地域展開》の仕組み構築(納税額)	企業版ふるさと納税:1口:10万円	100 万円以上	2 万円	2.0 %	C

2.実証内容と成果③

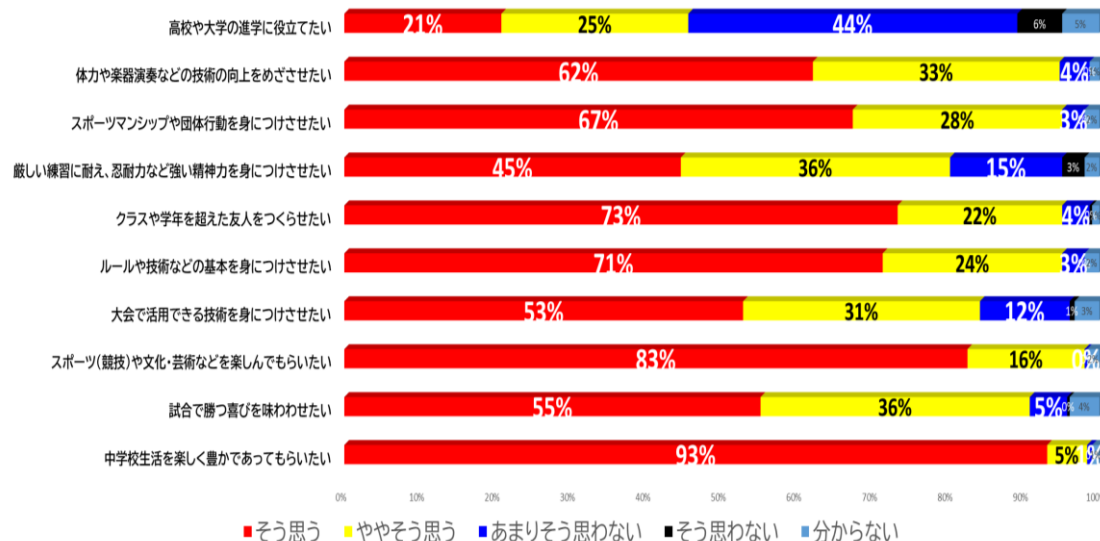
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

地域クラブで得た経験 《地域クラブ参加者》



地域クラブに期待すること



●参加者の声

中学2年生

部活動やクラブの時間が短くておもうように練習ができず、なかなか上達しなくて大会でも良い結果が出せないの
で時間の延長をしてほしいです。

中学2年生

地域指導者等の経験や知識が豊富な人に教えてもらえる
ほうがよりよい練習になると思います。これからたくさんの
地域指導者の人に教えてもらいたいです。

中学生保護者

中3なので既に引退済みですが部活動で沢山の経験を
させて頂き、3年間で心身ともに成長したと実感してお
ります。今後部活動の形も変化して行くと思いますが子
ども達が活動を通して青春できる場所があり続けて欲し
いと思います。

小学生保護者

子どもたちにとって有意義な時間、体験となるのなら、
保護者としてできるだけフォローがしたいと思います。
方針が変わることによって、子どもたちが過ごす時間の質
が低下することだけは避けたいと思います。

2.実証内容と成果④

参考資料

Discover Your Club Life!
With Support, With Heart.

播磨町の部活動地域展開は地域とともに行政が主導し運営しています!

持続可能な中学生の充実したクラブライフの実現へ

中学生にとって「部活動」は競技・種目・文化・芸術の専門性を高めるだけでなく、社会性やたくましい心、コミュニケーション力などを育むことのできる、かけがえのない大切な活動です。

播磨町では、学校主体の「部活動」を「地域の子どもは地域で育てる」を基本に「地域クラブ活動」へと展開し、中学生にとってより充実した活動にするため「部活動地域展開事業」を行政主導のもと、強力に推進しています。

Q1 地域クラブになるとだれが教えてくれるの?
A 専門性があり、意欲のある、複数の地域の指導者が教えてくれます。

Q2 地域クラブでは会費はどれくらいかかるの?
A 最大月額3000円程度までを考えています。

Q3 地域クラブの活動場所はどこになるの?
A 基本的には学校で活動します。クラブによっては町のスポーツ施設や中央公民館なども利用します。

【令和7年度版 保護者啓発用チラシ（表）】

《現状》令和7年時点

- ・既存部活動…0部
- ・地域連携型…22クラブ（休日が地域クラブ）
- ・新設クラブ創設型…20クラブ（平日・休日ともに地域クラブ）

令和7年9月現在

特徴

- 多種目
- 多世代
- 多志向
- トップ志向
- 楽しみ志向
- 複数可能 マルチクラブ活動

行政負担

- ・指導者の謝金等
- ・播磨町内の施設使用料
- ・援助家庭への経済的支援
- ・生徒の公式大会の派遣費（中体連等が主催する東播大会以上）
- ・指導者の資格取得助成
- ・共用で使用する備品及び消耗品

保護者負担

新たにご負担いただくもの

- ・運営団体（スポはり）の年会費（1,500円）
- ・保険料（800円/年）
- ・実施団体（各クラブ）の月会費

従来通り

- ・使用道具類の費用
- ・練習試合等の活動時の交通費等

播磨町の部活動の地域展開の主たる目的

中学生にとって持続可能で適切なクラブライフを享受できる環境整備

- 1 すべての子ども達が継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会の確保
- 2 本事業を通して、子ども達の体験格差を解消し、等しく多様な学びと体験に触れること
- 3 子ども達の心の居場所となる環境の整備をすること

そのためには…

新たなスポーツ・文化芸術環境の再構築が必要

生涯スポーツ社会・生涯学習社会の実現へ!

発達を見通した子ども達の活動の円滑な接続が必要

関係団体の機能強化で小・中9年間を見据えた体系的な指導体制の確立へ!

子ども達を地域総がかりで育てる

指導者が先生から地域指導者へ

地域展開が進むと指導者が増え、より専門的な指導が受けられます。

従来の部活動

中学校の先生が指導

地域クラブ

スポはり
スポーツクラブ

地域指導者が指導

※地域指導者として指導に当たる職員も増加しています。

【令和7年度版 保護者啓発用チラシ（裏）】

2.実証内容と成果⑤

参考資料



播磨町は、**中学校部活動を地域で展開する取組**を推進しています

時給1,200円

※交通費は別途支給します。(居住地or大学から実費支給)

サッカー **ハンドボール** **バドミントン**

- ≫ 中学生と楽しく活動してくれる学生を募集しています。
- ≫ 週1日、2～3時間程度の参加でもかまいません。※詳細は面接でお伝えします。
- ≫ 下記のコードよりご登録ください。後日大学内にて面接させていただきます。

播磨町教育委員会 地域学校教育課までお問い合わせください

TEL 079-435-0545

2次元コードから簡単にご登録できます▶

【大学生スタッフ 募集チラシ】



地域の力で、子どもたちの夢を支える

中学校部活動地域展開
クラウドファンディング
R7年度支援募集中！
9/30～12/19

持続可能な

中学生の充実したクラブライフの実現へ

今、全国的に中学校の部活動が消滅の危機にあります。
この流れに対し、播磨町では「部活動の地域展開」を進めています。地域指導者と教員が協働し、中学生の放課後を充実させるため多種多様な「地域クラブ」を設立。選択肢を増やしました。
そこで、スポーツ・文化などの各クラブにおいてより充実した練習環境を整えるため、皆様からの寄付金を募集します。



【令和7年度版 クラウドファンディング募集チラシ（表裏）】

令和7年度の活躍実績

- ・全国大会出場：陸上競技 砲丸投(優勝)、棒高跳
- ・近畿大会出場：陸上競技 円盤投(優勝)、棒高跳
- ・県大会出場：陸上競技 男子総合(2位)
- ・ハンドボール(ベスト8)
- ・ハンドボール(準優勝)
- ・剣道男子(団体3位)他入賞多数

★寄附金の使途

- ・地域展開した中学校部活動の備品や消耗品をさらに充実させます。
- ・運動部、文化部の双方に、皆様からの支援を届けます。
- ・充実した練習環境で、さらなる飛躍を目指します。

★寄附金の納付方法

- ・2,000円から1,000円単位で寄附金額を指定できます。
- ・右のQRコードより寄附申し出ができます。



★クラウドファンディング型ふるさと納税とは？

(ふるさと納税との違い) ※企業版ふるさと納税とは別制度です

	通常のふるさと納税	クラウドファンディング型ふるさと納税
寄附先の選び方	ゆかりのある地 返礼品の内容	事業(使い道)
税額控除	2,000円負担で一定の上限まで 所得税・住民税から金額控除	同左
返礼品	あり	あり(なしとする可も可) ※R7年度は返礼品なしで実施

本件に関するお問い合わせ

- 寄附の申出・納付について：播磨町企画課政策調整係
TEL: 079-435-0356 FAX: 079-435-0609
メール: kikaku@town.harima.lg.jp
- 事業(使途)について：播磨町教育委員会 地域学校教育課
TEL: 079-435-0545 FAX: 079-437-4193
メール: gakkoukyoiku@town.harima.lg.jp

播磨町公式HP
部活動地域展開



2.実証内容と成果⑥

参考資料（活動写真）

連携大学の監督・学生と一緒に練習するハンドボールクラブ
「流通科学大学体育館」



【大学連携の取組例①】

連携大学の学生からメンタルトレーニングの講義を受ける
男子バスケットボール部「播磨町立播磨中学校」



【大学連携の取組例②】

2.実証内容と成果⑦

参考資料（活動写真）

地域指導者に指導を受ける生徒達



【男子バスケットボール】

地域指導者に指導を受ける生徒達



【バドミントン】

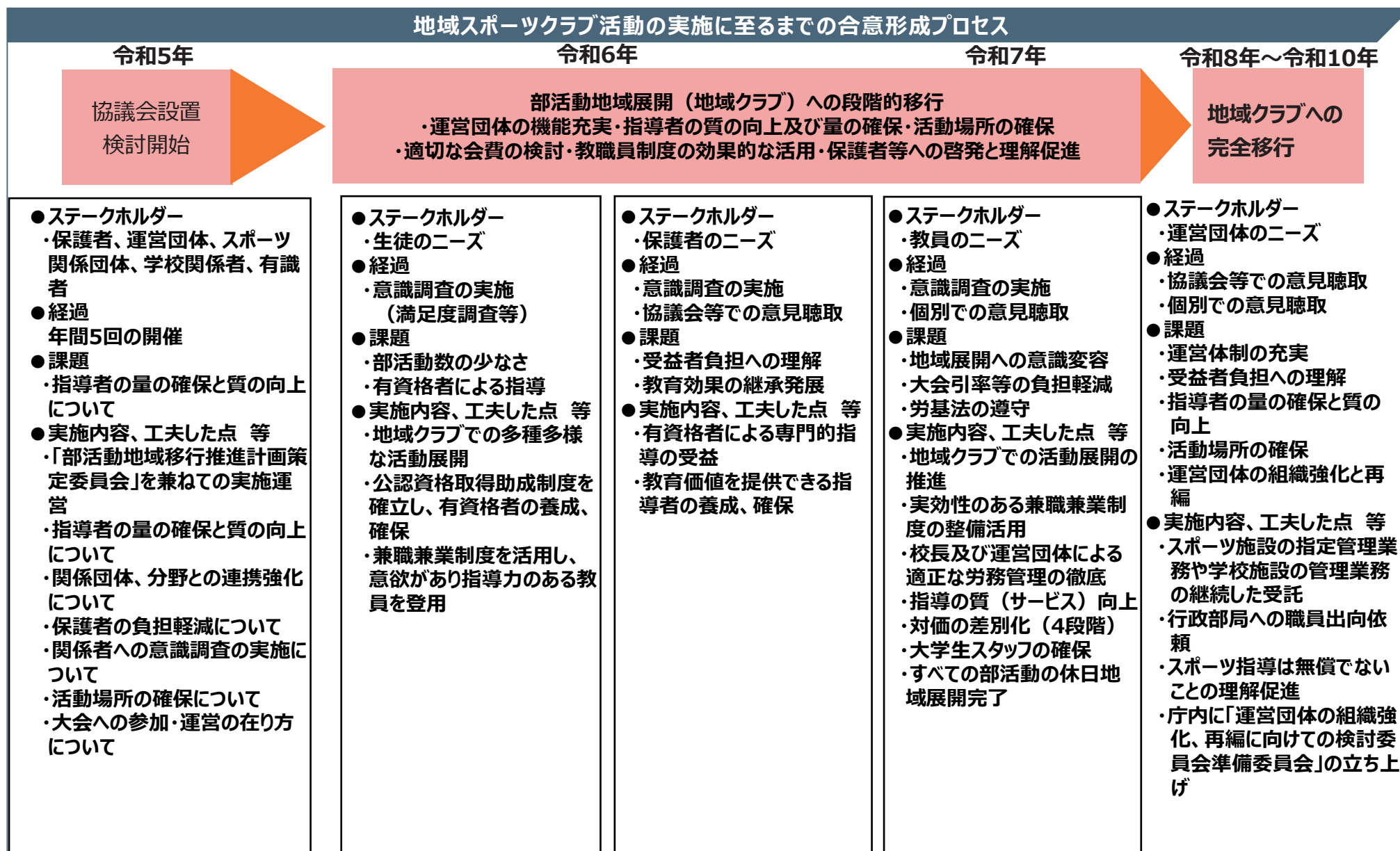


【卓球】

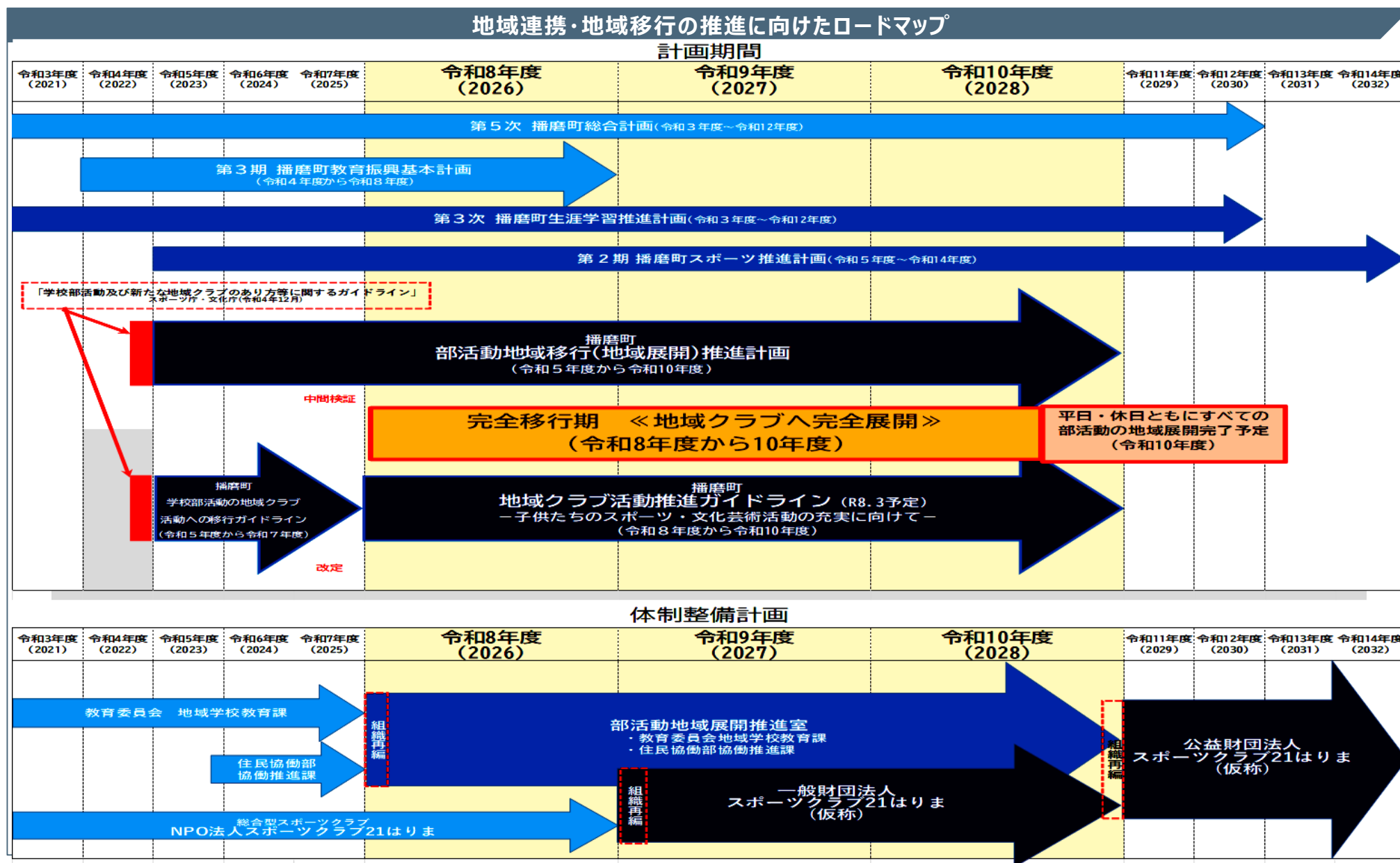


【サッカー】

2.実証内容と成果



3.今後の方向性



3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

取組項目	令和5年度	令和6年度 展 開 期	令和7年度	検 証	令和8年度	令和9年度 完全地域展開期	令和10年度
重点取組	◆ 活動内容の充実						
	◆ 指導者の確保						
	◆ 教員の意識改革						
	◆ 兼職兼業許可による指導者確保						
	◆ 指導者の質の向上						
	◆ 会員確保(障害のある生徒や不登校生徒等の活動機会の確保)						
	◆ 備品等の環境整備						
	◆ 指導者管理(コンプライアンスの徹底等)						
	◆ 安全管理(傷害保険、賠償保険の加入義務化)						
			◆ 運営団体の体制整備(一般財団法人化 → 公益財団法人化)				
			◆ 実施主体の体制整備(規約・役員名簿・事業計画・予算書等)				
			◆ 適正な財産管理(公正な会計処理、専用口座の開設等)				
類型	令和5年度	令和6年度 展 開 期	令和7年度	検 証	令和8年度	令和9年度 完全地域展開期	令和10年度
社会教育 新設クラブ創設型	剣道	体操	陸上競技	認定地域クラブ制度の導入	サッカー	バレー(女)	軟式野球
	少林寺拳法	水泳	ソフトボール		バスケ(男)	卓球	
	ハンドボール	e-スポーツ	バドミントン		バスケ(女)	吹奏楽	
	ジャズダンス	茶道	HPダンス		バレー(男)		
	ボランティア	生け花	パソコン		ソフトテニス		
	理科(Science)	書道	ESS		美術		
	芸術	将棋					
		伝統芸能三味線					
		獅子舞					

《重点目標》

- 生徒のニーズに応じた多種目・多世代・多志向の体験
- 生徒の個性・得意分野の尊重
- 学校の垣根を超えた仲間との繋がり創出
- 適切な資質能力を備えた指導者による良質な指導実践
- 9年間を見据えた一貫指導体制の確立
- 運営団体・実施主体の持続可能な組織体制の整備

■ すべての部活動において
地域展開の実現完了

生徒のニーズに応じた新設クラブを創設